

学生アルバイトに関する実証的研究（その1）

—関西学院大学社会学部のケース・スタディ—

遠 藤 惣 一
牧 正 英
西 山 美 瑛 子

目次

1. 調査の目的（遠 藤）
2. 調査対象と方法（西 山）
3. 調査結果の分析
 - (1) 調査結果の概要—質問文と
単純集計—（西山）
 - (2) 学年別特徴（西山）
 - (3) 3年、4年ゼミの専攻類別傾向（西山）
 - (4) 男女別分析—クロス集計結果と
多変量解析—（牧）
 - (5) 現在のアルバイト職種別分析—クロス集
計結果—（牧）
 - (6) 林の数量化Ⅲ類による
パターン分類（遠藤）

1. 調査目的

本研究は、本学社会学部の在学学生を対象としたケース・スタディではあるが、学生アルバイトが現代日本社会において果たしている現実的役割を探るための予備作業であって、われわれはさらに学生アルバイトに関する総合的研究を目指している。

学生アルバイトがもっている問題性をいくつか

指摘するならば、まず第1に学生アルバイトの定義である。ここでは正規の学校制度（現実的には大半が大学）に所属し、形の上では労働市場登場予備軍に位しながら、学業以外の自由時間を利用して臨時的な職業活動に従事して、収入を得る労働行為と規定しておく¹⁾。

第2は、学生アルバイトに対する需要と供給の総体的構造のマクロ分析である。まず需要の側については、最近の社会の産業化・情報化の進展ともなあって、雇用構造の急速な変化があり、かつての本工対臨時工・社外工という図式からパートタイム労働者や派遣労働者が一般化することによって雇用・就業形態が多様化している。例えば表1に示すように、高梨昌等のグループの試論的整理は現代の就業形態の複雑さを物語っている。最近特にパートタイム労働についての関心が高まり、平成元年度版の労働白書のサブタイトルが「高齢者雇用と女子パートタイム労働の現状と課題」であるように、調査や研究が蓄積されつつある²⁾。しかし、雇用・就業構造の多様化についてようやく認識され始めたものの、その実態の把握や概念化は十分であるということができないのが実情であろう。

本論の学生アルバイトのマクロ分析における概

1) 後述の引用論文「学生アルバイトの現状分析」では、「労働力統計における労働力人口にカウントされ得る要件を備えた学生」と定義し、具体的には、①15歳以上、②学校に在籍している、③調査月のある一週間において、仕事（アルバイト）をしていた、者であるとしている。

2) 例えば、次のような文献を挙げるができる。

労働省婦人局編、『パートタイム労働の展望と対策』、1988年

岡 伸一、『パートタイム労働の国際比較』、日本労働協会雑誌 No. 355、1989年

市野省三、『パートタイム労働市場の変貌過程』、日本労働協会雑誌 No. 356、1989年

『パートタイマー白書—女子パートの新しい雇用開発に向けて—』産業労働調査所、1984年

東京労働基準局編、『新版パートマイマー—その実態と意識—』、日本労働協会、1984年

表1 雇用・就業形態別労働者の類型と主な特徴

類 型		1日、1週、1カ月の労働時間	雇用契約期間	賃金形態	そ の 他	俗 称 等
通常の（一般）労働者	常 用	（当該企業の）通常の労働時間	定めなし（終身雇用慣行）	月給、日給		社員、本工
	常 用 （いわゆる「パートタイマー」、または「疑似的パートタイム労働者」）	通常の労働時間（通常に類似した労働時間）	定めなし 定めあり （ただし更新）	主に、時間給	残業なしが約半数、勤務時間等弾力的に決める場合が多い	パートタイマー（パート工）、準社員
パートタイム労働者 （典型的な「パートタイム労働者」）	常用 A	通常の労働者に比べ短時間	定めなし	時間給	残業なしが多い 勤務時間等が弾力的	パートタイマー（パート工）、定時社員、準社員、嘱託、アルバイト、臨時社員、その他企業で特別の名称を付する場合が多い
	常用 B （契約更新型）	同 上	定めあり （ただし更新）			
	臨 時	同 上	定めあり 更新なし			
臨 時 労 働 者		通常の労働者の労働時間と同じ	定めあり 更新なし	日 給		臨時工、季節工（出稼ぎ）、アルバイト
日 雇 い 労 働 者		同 上	日々雇用（雇用先不定）	日 給		日雇い
派 遣 労 働 者	常用雇用者	派遣元との労働契約の枠内で、派遣契約によって決定	定めなし	主に、月給、日給、時間給		派遣社員 派遣スタッフ、フィールド・スタッフ
	非常用雇用型	同 上	定めあり （ただし、登録型では、反復継続して雇用される場合あり）	主に、時間給	残業なしが原則、勤務時間等が弾力的	

〔出所〕フォーラム「パートタイム労働をめぐる問題点と対策の方向」（特集・労働問題1987—88年）、日本労働協会雑誌No. 343 35頁、1988年。

念化と位置づけもかならずしも明確といえず、表1の概念化においても典型的なパートタイム労働者の範疇にはいると同時に臨時労働者のカテゴリーにも含まれることとなり、この場合のアルバイトには学生アルバイト以外のケースが入ることになり、学生アルバイトの特性が把握できない。学生アルバイトの特性は、特に大学生については在学する数年間というある一定の若年の年齢層の極めて流動的な労働力給源であるという点であり、需要する側にとっては雇用の継続と法的保護を気遣うことの心配がなく、かつ比較的廉価な日給制であるなど、大変魅力的な労働給源であるということであろう。したがって、日本における学生アルバイトが結果として日本経済の発展に無視しがたい貢献をしていることになり、この点は、

後述の供給側の条件やそれを受け入れる社会の対応と関連する。つまり、学業を維持するためにのみ許容するといった、戦前の古いアルバイト観から戦後の大学の大学の大衆化とともに学生の側の多様な動機づけでアルバイトが行われることになり、好むと好まざるにかかわらず、日本経済に影響するような量的拡大があり、その客観的分析が必要であると考える。学生アルバイトに関する全国的統計は昭和59年度版の学生援護会編の「アルバイト白書」があるのみである。表2はアルバイト白書等をもとにして「学生アルバイトの現状分析」（小山義雄、金子敬子「学生アルバイトの現状分析」、日本労働協会雑誌 No. 345, 46-53 頁, 1988年）において総数を推計したものである。それによると、1986年には約300万人と推計され、同年の女子

パートタイム労働者の数とほぼ匹敵するという。いずれにせよ、学生アルバイトの実態が継続的に信頼性の高い機関で調査されることが強く望まれる所である。

表2 学生アルバイト従事者数の推計(日本) 1986年、
単位(千人)

① 高校生のアルバイト従事者数	$5,259 \times 0.177 = 931$
② 高等教育機関在籍者のアルバイト従業者数	$3,468 \times 0.593 = 2,057$
③ 15歳以上*学生アルバイト従事者数	$931 + 2,057 = 2,988$
④ 労働力調査で補捉されている学生アルバイト	660
⑤ 捕捉洩れ学生アルバイト従事者数	$2,988 - 660 = 2,328$
⑥ 労働力調査の捕捉率	$660 \div 2,988 = 22.1\%$

注：労働力調査の対象が15歳以上であるため、15歳以上に限定し、中学生のアルバイトは除いた。

資料：「アルバイト白書」、「文部統計要覧」、「労働力調査年報」。

次に、供給する側の条件としては、上述の量的拡大は戦後の、特に1955年以降の経済成長にともなう所得水準の向上と階層的流動性を生み出す原因となったより有利な職業選択を可能にする高等教育志向を一般化させ、当然大学進学率を上昇させ、大学を大衆化をさせた。これらの変化は職業観、教育観などの社会の価値観の変化をもたらし、学生アルバイトに対する考え方も変化させ、いわゆる苦学というイメージをもつ古い伝統的アルバイト観は後退し、学生生活の多様化に対応するアルバイト観が成立しているように見える。つまり、学費を調達することが主なる目的であった、かつてのアルバイトからレジャーや教養のためにアルバイトをするというのがごく一般的になっているように思える。そしてアルバイトはそうしたことのための単なる収入の手段なのか、アルバイト経験は将来の職業生活への準備として受け取られているのか、アルバイトの職種に関して収益性だけが考慮されているのか、家庭教師のように多少とも学業を生かした、アカデミック志向が残っているのかといった供給側の内的なマイクロ分析があわせて不可欠である。本論文はこの点の分析を目的としている。

第3に、学生アルバイトに関する国際比較研究が必要である。例えば、平成元年度版の労働白書

の付属統計表の「日本および主要欧米諸国におけるパートタイム労働者の概数」においても若干の関心が示されている。

さらに、本調査は本学部 of 学生諸君を対象としたことからいって、大学教育の担当者としての立場にあるわれわれにとって、これらの分析結果をわれわれ自身の今後の教育活動に生かしたいという個別的関心があることを付言しなければならない。最後に、本研究のために調査に協力してくれた学生の皆さん、ゼミ、クラス担当の学部の先生方、さらに調査票の作成、コンピュータ操作によるデータのインプット等に直接参加した、牧、西山、遠藤ゼミの皆さんに心からお礼を申し上げます。

2. 調査の対象と方法

(1) 調査対象

調査対象者：1988年6月現在の関西学院大学社会学部全在籍学生とし、全数調査(悉皆調査)とした。調査対象者のうちに長期欠席者を含めるが、休学者は除いた。

(2) 調査実施の方法と調査実施期間

社会学部の全学生を対象とする為に、特定調査期間における各学年の必修履修クラスでの教室で集合調査を行った。すなわち、1年は基礎ゼミクラス、2年は英語クラス、3年は研究演習Ⅰクラス、4年は研究演習Ⅱクラスの調査特定日のその時間での各クラス出席者を調査対象者とした。自記法による無記名の調査票を使用し、授業の開始前もしくは修了後の教室内で、授業担当者の御了解と御配慮をいただき、その当時刻の出席者に調査票を配布して、各自で記入してもらった。調査票記入終了後に調査員(牧、遠藤、西山の3ゼミの3年生)が調査票を回収した。

調査実施期間は、上記の各クラスでの調査は1988年6月中旬から6月末までの間に各クラスで1回、その調査票配布と回収の時間限りで行った。長期欠席者に対しては、夏休み8月中に、牧、遠藤、西山の3人で郵送法により調査票を発送し、返送されてくるのを待って10月初旬に調査期間を終了とした。

ここに、改めて紙上を借りて、調査に御協力いただいた各クラス御担当の先生方ならびに調査票に御回答いただいた本学社会学部の学生の皆さんに心から感謝の意を表したい。

(3) 調査票の構成とその作成までの経緯

1. 調査票の構成

B4 大用紙 1 枚片面に全質問30問とその回答肢を入れているが、そのうち、個人属性関係項目(学年、性別、アルバイト経験の有無など)が4問、仕事についての状況、労働条件(アルバイトの勤務時間、時間帯、1週間当りの日数、時給、その他)などに関するものが8問、現在のアルバイトに対する態度についてなどが17問、アルバイトで得た収入の用途の実態についてが1問(下位質問7を含む)の、計4つの領域の質問群から調査票は出来ている。

2. 調査票作成に至るまでの経緯

「学生アルバイトの実証的調査」の調査票完成までの過程は、次のような手順によっている。

①1988学年度の牧ゼミ、遠藤ゼミ、西山ゼミの社会学実習Ⅰのテーマを「学生アルバイトの実態調査研究」とし、次学年度の社会学実習Ⅱのテーマはそのまま継続する。

②1988年度の4月、5月の牧、遠藤、西山の3ゼミの社会学実習の時間に、学生アルバイトについての調査の設計、調査票の作成を行った。各ゼミでは、それぞれに幾つかの班編成をし、各班それぞれに、調査項目の大項目、中項目、細目、質問文・回答肢と作り進んだが、その間にそれらに

についての宿題も学生はこなして、班別の構想も段々形をなしてきた。

③各ゼミ毎に調査項目、質問文・回答肢などを統合、整理した。

④牧、遠藤、西山の各ゼミで統合、整理したものを持ちより、3ゼミのものを一つに纏めた。

⑤更に、遠藤ゼミの卒業生で1987年3月提出の卒業論文で学生アルバイト調査を行った邊見桂一君と元二誠司君の学生アルバイトに関する調査票も参考にした。

⑥最終的に、B4 大用紙 1 枚片面に質問30問とその回答肢を収めて調査票が出来上がったのが、1988年6月であり、学内で急ぎ印刷して、社会学部全学生に配布する調査票が完成した。

(4) 調査票回収結果と回収率

調査票の回収状況は第3表の通りである。長期欠席者とは、教務調べで、必修履修クラスの出席状況がその学年度の4月から6月段階で長期欠席の場合にリスト・アップされた学生を指している。全体としては、約80%の回収率であり、回収票数合計は1,828票である。(注 長期欠席者は、回収率計算には履修者クラスの内数に含まれていない。)

なお、付言すれば、調査当日の欠席者が多いようであるが、調査実施は、各クラスにその授業時間の前か後に1回だけ入室して調査票記入をお願いしたものであり、当日当時刻の遅刻者や欠席者がそのまま数字となって出たものである。

第3表 調査票回収結果一覧表

	回収票数	履修者数に対する回収率	履修者数	調査当日の欠席者数
人文演習	206	83.73%	246	40
社会演習	284	83.28%	341	57
英語1甲(2年再履修組)	32	74.40%	43	11
英語2甲	455	73.10%	622	167
研究演習Ⅰ	450	83.95%	536	86
研究演習Ⅱ	384	75.44%	509	125
[長期欠席者・返送分]	17	18.08%	[長欠者 94]	77(返送なし)]
合計	1,828	79.58%	2,297	563

(5) 調査票回収後の単純集計に至るまでの作業

調査票の回収には、クラス毎に別袋に収納してクラス番号を付し、全回収調査票には通し番号0001から1828の番号を付した。これには牧、遠藤、西山の3ゼミ生合計68人が1教室に集って、クラス番号と通し番号をそれぞれ調査票1枚1枚に手分けして書き記していった。その後、3ゼミ生は1人当たり26票ないし27票を受け持って、回答のコーディング(記号化)を行った。なお、アルバイトの職種の分類は西山が最終的に総チェックを行なった。ゼミ生はそれぞれに自分に割り当てられた調査票を、大型電算機を利用して、社会学実習の時間にインプットし、各人のそれぞれのデータ・ファイルは2人1組になって幾度も点検作業を行ない、コーディング誤りやインプットの修正にかなりの時間を費やした。その68人が作った68個のデータ・ファイルを遠藤教授が1つのデータ・ファイルにつなげて、ここに「社会学部学生アルバイトの実態調査」データ・ファイルが出来上がった。この作業は大体1988年10月から12月までかかった。そうして社会学実習Ⅰの時間に単純集計が出来たのが1989年1月である。調査票の作成からはじまって、このデータのインプットに至るまで努力した現在の4年生は、引続きこのデータを使用して、社会学実習Ⅱの授業の中で、各人がそれぞれ別個の課題を分担して、クロス集計と作図、およびその解説を作成しつつあるところである。

3. 調査結果の分析

1988年6月に実施した「社会学部学生アルバイトの実態調査」は本学社会学部学生が調査対象者となったものであり、早い機会に社会学部の先生方と学生の皆さんに調査結果をお知らせすることが、調査を行った私どもの責任と義務であると考えている。調査結果の分析は今後も続行する予定であるが、今回は単純集計と一部のクロス集計および多変量解析を取上げた。

(1) 調査結果の概要—質問文と単純集計—

まず、調査票の全文を付表に掲載し、第4表以下の図表で使用している質問項目や回答肢の元の

文章をこれで参照していただきたい。

1, 828票の全体集計結果は単純集計として、第4表左方にそれを示している。その百分率の構成比は、「無回答(NAと略称)あり比率」と「無回答(NAと略称)なし比率」の二種類に分けて示した。

なお、「無回答(NAと略称)あり比率」の百分率構成比は「Q05 現在のアルバイトの内容」以下の各質問項目の回答結果で、「現在アルバイトをしていない」回答者を比率に含めており、調査回答者全体の中での回答比率を示したものである。

「無回答(NAと略称)なし比率」は、「Q05 現在のアルバイトの内容」以下の質問項目については「現在アルバイトをしている」ものみの回答構成比率を示したものであり、「現在アルバイトをしていない」と「無回答(NAと略称)」を取り除いて計算したものである。

第4表左方の単純集計結果からみた、幾つかなの特筆すべき点を以下に簡単に記しておきたい。(なお、文中での百分率構成比の書き出しは、Q02性別を除いては、小数点以下は四捨五入して記述を行った。)

1) 回答者属性からみた特徴

Q02. 性別: 回答者の性別は男性53.3%, 女性46.7%で男性比率がやや高い。1988年7月1日現在の在籍学生男女比は、男子学生59.2%, 女子学生40.8%であるから、在籍比率と回収比率とを対照させてみると回答者の女性比率が若干上回っているのは、調査当日、女子学生のほうが男子学生に比べて出席率が良かったということであり、女子学生が平素から出席率が良いとの印象が、今回の調査回収結果でも改めて証明されたといえよう。

Q03. 住居別: 「自宅」が76%で、「自宅以外」は24%である。

Q04. アルバイト経験の有無別: 「アルバイト経験が有る」が94%, 「アルバイトの経験が無い」は6%である。アルバイト経験が「有る」の比率が非常に高いのに驚かされるが、既に、アルバイトが学生生活の一部となっていることが、この数字から推察できる。

Q04SQ1. アルバイト経験がある場合の回数: 「変えない」が21%, 1回~3回は44%で、この両

第4表 「学生アルバイト」の実態・意識調査の単純集計および学年別クロス集計

		全 体			学 年 別				
		N=1,828	NAアリ%	NAナシ%	1 年 N %	2 年 N %	3 年 N %	4 年 N %	それ以上 N %
Q01. 学 年	1. 1年	483	26.4	26.4	483				
	2. 2年	475	26.0	26.0		475			
	3. 3年	450	24.6	24.6			450		
	4. 4年	402	22.0	22.0				402	
	5. それ以上	18	1.0	1.0					18
	計	1,828	100.0	100.0					
Q02. 性 別	1. 男性	975	53.3	53.3	242 50.1	198 41.7	254 56.4	264 65.7	17 94.5
	2. 女性	853	46.7	46.7	241 49.9	277 58.3	196 43.6	138 34.3	1 5.6
	0. NA	—	—	—	計 483 100.0	計 475 100.0	計 450 100.0	計 402 100.0	計 18 100.0
Q03. 住 居	1. 自宅	1,382	75.6	75.9	362 75.1	369 78.2	341 75.9	297 74.1	13 72.2
	2. 自宅以外	440	24.1	24.1	120 24.9	103 21.8	108 24.1	104 25.9	5 27.8
	0. NA	6	0.3	—	計 482 100.0	計 472 100.0	計 449 100.0	計 401 100.0	計 18 100.0
Q04. アルバイト経 験	1. 有る	1,715	93.8	93.9	396 82.0	462 97.7	441 98.0	399 99.3	17 94.4
	2. 無い	111	6.1	6.1	87 18.0	11 2.3	9 2.0	3 0.7	1 5.6
	0. NA	2	0.1	—	計 483 100.0	計 473 100.0	計 450 100.0	計 402 100.0	計 18 100.0
Q04. S Q1. アルバイト経 験がある場合 の回数	0. 変えない	352	19.3	21.1	138 33.7	88 20.1	66 15.5	59 15.5	1 6.3
	1. 1回	220	12.0	13.2	90 22.0	65 14.9	46 10.8	18 4.7	1 6.3
	2. 2回	237	13.0	14.2	67 16.3	79 18.1	42 9.9	49 12.9	0 —
	3. 3回	280	15.3	16.8	58 14.1	72 16.5	81 19.1	69 18.2	0 —
	4. 4回	151	8.3	9.1	23 5.6	44 10.1	47 11.1	34 8.9	3 18.8
	5. 5回	144	7.9	8.6	13 3.2	41 9.4	43 10.1	45 11.8	2 12.5
	6. 6回	65	3.6	3.9	8 2.0	16 3.7	25 5.9	16 4.2	0 —
	7. 7回	50	2.7	3.0	6 1.5	8 1.8	12 2.8	20 5.3	4 25.0
	8. 8回~10回	23	1.3	1.4	2 0.5	1 0.2	14 3.3	6 1.6	0 —
	9. 11回以上	146	8.0	8.8	5 1.2	23 5.3	49 11.5	24 16.8	5 31.3
99. NA+バイト経験なし	160	8.8	—	計 410 100.0	計 437 100.0	計 425 100.0	計 380 100.0	計 16 100.0	
Q04. S Q2. この前のアル バイトの内容	1. 現場作業	87	4.8	6.3	32 10.6	14 3.9	12 3.4	28 8.2	1 6.3
	2. 運輸・通信	110	6.0	8.0	34 11.3	21 5.8	32 8.9	21 6.2	2 12.5
	3. 販売	275	15.0	20.0	68 22.6	82 22.8	72 20.1	50 14.7	3 18.8
	4. サービス	444	24.3	32.3	107 35.5	115 32.0	119 33.2	100 29.4	3 18.8
	5. 事務	130	7.1	9.5	30 10.0	44 12.3	23 6.4	32 9.4	1 6.3
	6. 教育	246	13.5	17.9	19 6.3	64 17.8	84 23.5	76 22.4	3 18.8
	7. 専門・技術	60	3.3	4.4	6 2.0	17 4.7	9 2.5	26 7.6	2 12.5
	8. その他	22	1.2	1.6	5 1.7	2 0.6	7 2.0	7 2.1	1 6.3
	0. バイトなしとNA	454	24.8	—	計 301 100.0	計 359 100.0	計 358 100.0	計 340 100.0	計 16 100.0
Q05. 現在のアルバ イトの職種	1. 現場作業	20	1.1	1.6	3 1.1	4 1.1	7 2.0	6 2.2	0 —
	2. 運輸・通信	62	3.4	4.9	14 5.4	2 0.6	22 6.3	23 8.2	1 10.0
	3. 販売	144	7.9	11.5	46 17.6	41 11.8	35 10.0	21 7.5	1 10.0
	4. サービス	337	18.4	27.0	88 33.7	81 23.3	80 23.9	83 29.8	5 50.0
	5. 事務	91	5.0	7.3	16 6.1	23 6.6	27 7.7	24 8.6	1 10.0
	6. 教育	519	28.4	41.6	87 33.3	169 48.6	159 45.1	102 36.6	2 20.0
	7. 専門・技術	61	3.3	4.9	7 2.7	21 6.0	17 4.9	16 5.7	0 —
	8. その他	14	0.8	1.1	0 0	7 2.0	3 0.8	4 1.4	0 —
	9. バイトなし	513	28.1	—	205	110	84	106	8
0. NA	67	3.7	—	計 466 100.0	計 458 100.0	計 434 100.0	計 385 100.0	計 18 100.0	
Q06. 現在のアルバ イトの情報経 路	1. ARBEITNEWS	210	11.5	16.5	62 22.8	66 18.4	48 13.7	31 11.0	3 30.0
	2. 広告	70	3.8	5.5	17 6.3	23 6.4	18 5.1	12 4.2	0 —
	3. チラシ	24	1.3	1.9	9 3.3	9 2.5	4 1.1	2 0.7	0 —
	4. 学生相談所	27	1.5	2.1	3 1.1	11 3.1	5 1.4	8 2.8	0 —
	5. 友人の紹介	524	28.7	41.2	88 32.4	128 35.8	165 47.1	140 49.5	3 30.0
	6. 大学厚生課	28	1.5	2.2	0 —	8 2.2	10 2.9	10 3.5	0 —
	7. 張り紙	47	3.7	5.3	35 12.9	12 3.4	11 3.1	8 2.8	1 10.0
	8. その他	323	17.7	25.4	58 21.3	101 28.2	89 25.4	72 25.4	3 30.0
	0. NA	555	30.4	—	計 272 100.0	計 358 100.0	計 350 100.0	計 283 100.0	計 10 100.0

		全 体			学 年 別				
		N=1,828	NAアリ%	NAナシ% バイトナシ	1 年 N %	2 年 N %	3 年 N %	4 年 N %	それ以上 N %
Q07 1週間当りの アルバイト日 数	1. 1日	139	7.6	10.8	36 13.1	32 8.9	30 8.4	40 14.0	1 10.0
	2. 2日	372	20.4	28.9	95 34.7	85 23.7	106 29.7	82 28.7	4 40.0
	3. 3日	348	19.0	27.1	61 22.3	116 32.3	93 26.1	76 26.6	2 20.0
	4. 4日	237	13.0	18.4	45 16.4	76 21.2	64 17.9	50 17.5	2 20.0
	5. 5日	111	6.1	8.6	22 8.0	31 8.6	38 10.6	20 7.0	0 —
	6. 6日	62	3.4	4.8	11 4.0	14 3.9	21 5.9	15 5.2	1 10.0
	7. 7日	17	0.9	1.3	4 1.5	5 1.4	5 1.4	3 1.0	0 —
	0. NA	542	29.6		計 274 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 286 100.0	計 10 100.0
Q08. 1日当りの時 間数	1. 1時間	58	3.2	4.6	12 4.5	17 4.8	17 4.8	11 4.0	1 10.0
	2. 2時間	303	16.6	24.2	53 19.8	103 29.3	93 26.5	54 19.7	0 —
	3. 3時間	188	10.3	15.0	38 14.2	63 17.9	48 13.7	39 14.2	0 —
	4. 4時間	170	9.3	13.6	49 18.3	38 10.8	48 13.7	34 12.4	1 10.0
	5. 5時間	160	8.8	12.8	39 14.6	43 12.3	46 13.1	32 11.7	0 —
	6. 6時間	107	5.9	8.5	30 11.2	31 8.8	26 7.4	19 6.9	1 10.0
	7. 7時間	79	4.3	6.3	21 7.8	14 4.0	21 6.0	23 8.4	0 —
	8. 8時間	121	6.6	9.6	17 6.3	26 7.4	36 10.3	38 13.9	4 40.0
	9. 9時間以上	68	3.7	5.4	9 3.4	16 4.6	16 4.6	24 8.8	3 30.0
	0. NA	574	31.4		計 268 100.0	計 351 100.0	計 351 100.0	計 274 100.0	計 10 100.0
Q09. 現在のアルバ イトの継続期 間	1. 6ヶ月未満	575	31.5	45.1	258 96.3	155 43.5	105 29.6	53 18.6	4 40.0
	2. 6ヶ月～1年未満	116	6.3	9.1	1 0.4	64 18.0	35 9.9	16 5.6	0 —
	3. 1年～1年6ヶ月未満	275	15.0	21.6	6 2.2	126 35.4	83 23.4	59 20.7	1 10.0
	4. 1年6ヶ月～2年未満	36	2.0	2.8	1 0.4	1 0.3	21 5.9	13 4.6	0 —
	5. 2年～2年6ヶ月未満	162	8.9	12.7	1 0.4	10 2.8	94 26.5	55 19.3	2 20.0
	6. 2年6ヶ月～3年未満	11	0.6	0.9	0 —	0 —	0 —	11 3.9	0 —
	7. 3年～3年6ヶ月未満	79	4.3	6.2	0 —	0 —	15 4.2	64 22.5	0 —
	8. 3年6ヶ月以上	20	1.1	1.6	1 0.4	0 —	2 0.6	14 4.9	3 30.0
	0. NA	554	30.3		計 268 100.0	計 356 100.0	計 355 100.0	計 285 100.0	計 10 100.0
Q10. 勤務時間帯	1. 午前	89	4.9	6.9	15 5.5	21 5.8	28 7.8	23 8.0	2 20.0
	2. 午後(昼)	307	16.8	23.9	68 25.0	80 22.3	76 21.3	81 28.2	2 20.0
	3. 夜	747	40.9	58.2	167 61.4	227 63.2	207 58.0	146 50.9	1 10.0
	4. 深夜	121	6.6	9.4	20 7.4	22 6.1	43 12.0	31 10.8	5 50.0
	5. その他	20	1.1	1.6	2 0.7	9 2.5	3 0.8	6 2.1	0 —
	0. NA	543	29.7		計 272 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 287 100.0	計 10 100.0
Q11. 現在のアルバ イトの時給	1. ～550円	113	6.2	8.9	43 16.0	28 8.1	24 6.7	17 6.0	1 11.1
	2. 551～600円	193	10.6	15.3	61 22.7	49 14.1	47 13.2	36 12.7	0 —
	3. 601～650円	110	6.0	8.7	25 9.3	30 8.6	24 6.7	30 10.6	1 11.1
	4. 651～700円	116	6.3	9.2	21 7.8	32 9.2	30 8.4	32 11.3	1 11.1
	5. 701～800円	124	6.8	9.8	23 8.6	30 8.6	33 9.3	36 12.7	2 22.2
	6. 801～1,000円	116	6.3	9.2	20 7.4	25 7.2	41 11.5	30 10.6	0 —
	7. 1,001～2,000円	404	22.1	31.9	61 22.7	132 38.0	129 36.2	80 28.3	2 22.2
	8. 2,001円以上	88	4.8	7.0	15 5.6	21 6.1	28 7.9	22 7.8	2 22.2
	0. NA	564	30.9		計 269 100.0	計 347 100.0	計 356 100.0	計 283 100.0	計 9 100.0
Q12. 勤 務 地	1. 大阪市	330	18.1	25.7	66 24.0	96 26.9	86 24.2	79 27.3	3 33.3
	2. 神戸市	232	12.7	18.0	46 16.7	76 21.3	67 18.8	41 14.2	2 22.2
	3. 西宮市近辺	270	14.8	21.0	52 18.9	65 18.2	84 23.6	67 23.2	2 22.2
	4. その他	454	24.8	35.3	111 40.4	120 33.6	119 33.4	102 35.3	2 22.2
	0. NA	542	29.6		計 275 100.0	計 357 100.0	計 356 100.0	計 289 100.0	計 9 100.0
Q13. 時給満足度	1. はい	638	34.9	49.6	117 42.5	168 46.7	188 53.3	159 55.2	6 60.0
	2. いいえ	386	21.1	30.0	100 36.4	105 29.2	101 28.6	77 26.7	3 30.0
	3. どちらとも	262	14.3	20.4	58 21.1	87 24.2	64 18.1	52 18.1	1 10.0
	0. NA	542	29.6		計 275 100.0	計 360 100.0	計 353 100.0	計 288 100.0	計 10 100.0
Q14. 勤務時間満足 度	1. はい	828	45.3	64.3	161 58.5	232 64.8	227 63.6	202 20.4	6 60.0
	2. いいえ	267	14.6	20.7	70 25.5	74 20.7	68 19.0	53 18.5	2 20.0
	3. どちらとも	192	10.5	14.9	44 16.0	52 14.5	62 17.4	32 11.1	2 20.0
	0. NA	541	29.6		計 275 100.0	計 358 100.0	計 357 100.0	計 287 100.0	計 10 100.0

		全 体			学 年 別					
		N=1,828	NAアリ%	NAナシ% バイトナシ	1 年 N %	2 年 N %	3 年 N %	4 年 N %	それ以上 N %	
Q15. アルバイトは 収入の単なる 手段	1. はい	394	21.6	30.6	102 37.2	116 32.2	108 30.4	62 21.6	6 60.0	
	2. いいえ	544	29.8	42.3	95 34.7	140 38.9	151 42.5	155 54.0	3 30.0	
	3. どちらとも	348	19.0	27.1	77 28.1	104 28.9	96 27.0	70 24.4	1 10.0	
	0. NA	542	29.6		計 274 100.0	計 360 100.0	計 355 100.0	計 287 100.0	計 10 100.0	
Q16. アルバイトは 今後の職業生 活に必要な	1. はい	862	47.2	67.1	184 67.2	256 71.5	231 65.4	188 65.1	3 30.0	
	2. いいえ	164	9.0	12.8	27 9.9	40 11.2	56 15.9	37 12.8	4 40.0	
	3. どちらとも	258	14.1	20.1	63 23.0	62 17.3	66 18.7	64 22.1	3 30.0	
	0. NA	544	29.8		計 274 100.0	計 358 100.0	計 353 100.0	計 289 100.0	計 10 100.0	
Q17 アルバイト収入の 用途	Q1701 学 費	1. 選択	38	2.1	3.0	7 2.5	6 1.7	11 3.3	11 3.8	3 37.5
		2. 非選択	1,234	67.5	97.0	269 97.5	355 98.3	327 96.7	278 96.2	5 62.5
		0. NA	556	30.4		計 276 100.0	計 361 100.0	計 338 100.0	計 289 100.0	計 8 100.0
	Q1702 生活費	1. 選択	318	17.4	24.9	54 19.6	70 19.4	95 27.6	95 32.9	4 44.4
		2. 非選択	961	52.6	75.1	222 80.4	291 80.6	249 72.4	194 67.1	5 55.6
		0. NA	549	30.0		計 276 100.0	計 361 100.0	計 344 100.0	計 289 100.0	計 9 100.0
	Q1703 遊び代	1. 選択	869	47.5	67.7	189 68.5	237 65.7	251 72.1	184 63.4	8 88.9
		2. 非選択	415	22.7	32.3	87 31.5	124 34.3	97 27.9	106 36.6	1 11.1
		0. NA	544	29.8		計 276 100.0	計 361 100.0	計 348 100.0	計 290 100.0	計 9 100.0
	Q1704 衣服代	1. 選択	474	25.9	37.1	127 46.0	155 42.9	111 32.3	79 27.3	2 22.2
		2. 非選択	805	44.0	62.9	149 54.0	206 57.1	233 67.7	210 72.7	7 77.8
		0. NA	549	30.0		計 276 100.0	計 361 100.0	計 344 100.0	計 289 100.0	計 9 100.0
	Q1705 教養費	1. 選択	290	15.9	22.8	58 21.0	79 21.9	72 21.2	78 27.0	3 37.5
		2. 非選択	984	53.8	77.2	218 79.0	282 78.1	268 78.8	211 73.0	5 62.5
		0. NA	554	30.3		計 276 100.0	計 361 100.0	計 340 100.0	計 289 100.0	計 8 100.0
	Q1706 自動車 や旅行	1. 選択	300	16.4	23.5	57 20.7	92 25.5	84 24.6	67 23.2	0 -
		2. 非選択	976	53.4	76.5	219 79.3	269 74.5	258 75.4	222 76.8	8 100.0
		0. NA	552	30.2		計 276 100.0	計 361 100.0	計 342 100.0	計 289 100.0	計 8 100.0
	Q1707 その他	1. 選択	90	4.9	7.1	24 8.7	23 6.4	26 7.7	16 5.5	1 11.1
		2. 非選択	1,184	64.8	92.9	252 91.3	338 93.6	313 92.3	273 94.5	8 88.9
		0. NA	554	30.3		計 276 100.0	計 361 100.0	計 339 100.0	計 289 100.0	計 9 100.0
	Q18. 学業の妨げ	1. はい	180	9.8	13.9	29 10.5	50 13.9	59 16.5	38 13.1	4 40.0
		2. いいえ	778	42.6	60.2	162 58.9	221 61.2	211 59.1	181 62.4	3 30.0
		3. どちらとも	335	18.3	25.9	84 30.5	90 24.9	87 24.4	71 24.5	3 30.0
		0. NA	535	29.3		計 275 100.0	計 361 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0
	Q19. ウェイトのかけ方	1. 学業	587	32.1	45.5	123 44.6	158 43.9	175 49.3	128 44.3	3 30.0
		2. アルバイト	259	14.2	20.1	60 21.7	72 20.0	56 15.8	69 23.9	2 20.0
		3. どちらとも	444	24.3	34.4	93 33.7	130 36.1	124 34.9	92 31.8	5 50.0
0. NA		538	29.4		計 276 100.0	計 360 100.0	計 355 100.0	計 289 100.0	計 10 100.0	
Q20. 仕事で正しい 評価	1. はい	864	47.3	67.2	164 59.9	233 65.1	240 67.8	223 76.9	4 40.0	
	2. いいえ	58	3.2	4.5	13 4.7	13 3.6	21 5.9	9 3.1	2 20.0	
	3. どちらとも	364	19.9	28.3	97 35.4	112 31.3	93 26.3	58 20.0	4 40.0	
	0. NA	542	29.6		計 274 100.0	計 358 100.0	計 354 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0	
Q21. 仕事上聞き入 れられ	1. はい	795	43.5	61.6	144 52.4	226 63.0	227 63.6	194 66.9	4 40.0	
	2. いいえ	164	9.0	12.7	44 16.0	49 13.6	36 10.1	33 11.4	2 20.0	
	3. どちらとも	332	18.2	25.7	87 31.6	84 23.4	94 26.3	63 21.7	4 40.0	
	0. NA	537	29.4		計 275 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0	
Q22. 仕事まかされ る	1. はい	891	48.7	69.1	152 55.5	241 67.1	257 72.0	234 80.7	7 70.0	
	2. いいえ	116	6.3	9.0	32 11.7	36 10.0	31 8.7	15 5.2	2 20.0	
	3. どちらとも	283	15.5	21.9	90 32.8	82 22.8	69 19.3	41 14.1	1 10.0	
	0. NA	538	29.4		計 274 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0	
Q23. 勤務時間帯満 足度	1. はい	840	46.0	65.1	171 62.4	236 65.7	229 64.1	200 69.0	4 40.0	
	2. いいえ	253	13.8	19.6	59 21.5	63 17.5	73 20.4	54 18.6	4 40.0	
	3. どちらとも	197	10.8	15.3	44 16.1	60 16.7	55 15.4	36 12.4	2 20.0	
	0. NA	538	29.4		計 274 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0	
Q24. ストレスを感 じる	1. はい	389	21.3	30.1	83 30.3	124 34.4	109 30.5	69 23.8	4 40.0	
	2. いいえ	607	33.2	47.0	125 45.6	147 40.8	165 46.2	166 57.2	4 40.0	
	3. どちらとも	295	16.1	22.9	66 24.1	89 24.7	83 23.2	55 19.0	2 20.0	
	0. NA	537	29.4		計 274 100.0	計 360 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0	

		全 体			学 年 別				
		N=1,828	NAアリ%	NAナシ% バイトナシ	1 年 N %	2 年 N %	3 年 N %	4 年 N %	それ以上 N %
Q25. 楽しくやっ ている	1. はい	845	46.2	65.5	167 60.9	223 61.9	232 65.0	218 75.2	5 50.0
	2. いいえ	114	6.2	8.8	26 9.5	39 10.8	31 8.7	16 5.5	2 20.0
	3. どちらとも	332	18.2	25.7	81 29.6	98 27.2	94 26.3	56 19.3	3 30.0
	0. NA	537	29.4		計 274 100.0	計 360 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0
Q26. 人間関係うま くいく	1. はい	1,077	58.9	83.6	212 77.4	298 82.8	299 84.0	260 90.0	8 80.0
	2. いいえ	32	1.8	2.5	8 2.9	13 3.6	8 2.2	3 1.0	0 -
	3. どちらとも	180	9.8	14.0	54 19.7	49 13.6	49 13.8	26 9.0	2 20.0
	0. NA	539	29.5		計 274 100.0	計 360 100.0	計 356 100.0	計 289 100.0	計 10 100.0
Q27. アルバイト先 通勤便利	1. はい	943	51.6	73.2	195 71.2	250 69.8	271 75.9	219 75.5	8 80.0
	2. いいえ	196	10.7	15.2	40 14.6	58 16.2	55 15.4	41 14.1	2 20.0
	3. どちらとも	150	8.2	11.6	39 14.2	50 14.0	31 8.7	30 10.3	0 -
	0. NA	539	29.5		計 274 100.0	計 358 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0
Q28. 能力向上に役 立つ	1. はい	786	43.0	60.9	152 55.5	223 62.1	209 58.5	199 68.6	3 30.0
	2. いいえ	153	8.4	11.9	30 10.9	42 11.7	53 14.8	24 8.3	4 40.0
	3. どちらとも	351	19.2	27.2	92 33.6	94 26.2	95 26.6	67 23.1	3 30.0
	0. NA	538	29.4		計 274 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0
Q29. 卒業迄アルバ イトを継続	1. はい	870	47.6	67.4	150 54.5	254 70.8	237 66.4	221 76.2	8 80.0
	2. いいえ	181	9.9	14.0	54 19.6	39 10.9	59 16.5	27 9.3	2 20.0
	3. どちらとも	240	13.1	18.6	71 25.8	66 18.4	61 17.1	42 14.5	0 -
	0. NA	537	29.4		計 275 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0
Q30. アルバイト生 活全体満足感	1. はい	779	42.6	60.4	138 50.4	207 57.7	207 58.0	221 76.2	6 60.0
	2. いいえ	168	9.2	13.0	49 17.9	47 13.1	50 14.0	20 6.9	2 20.0
	3. どちらとも	343	18.8	26.6	87 31.8	105 29.2	100 28.0	49 16.9	2 20.0
	0. NA	538	29.4		計 274 100.0	計 359 100.0	計 357 100.0	計 290 100.0	計 10 100.0

者合計は65%となり、全体の3分の2に相当するわけで、アルバイトを変える頻度は全体としてみればそう多いとはいえない。しかし、その他方で「6回以上」が17%であり、6人余に1人がそうである。

Q04SQ2. 以前のアルバイトの仕事内容：現在の仕事内容に比べて、以前の仕事の内容（職種）のほうが構成比は分散している傾向を示しているが、比率が高い順に記せば「サービス」「販売」「教育」「事務」「運輸通信」「現場作業」「専門・技術」の順である。

2) 現在の仕事やその内容についての状況、労働条件などに関するもの

Q05. 現在のアルバイトの職種：最頻度を示しているのが「教育」（家庭教師、塾教師など）で42%弱であり、ついで「サービス」27%、「販売」12%、「事務」7%、の順になっており、その後その他の職種が続いている。

Q06. 現在のアルバイトの情報経路：友人の紹介が41%を占めている。友人という人脈を通じてのアルバイト先決定は、仕事の内容や労働条

件が当人に事前に把握でき、すでに友人を媒介とする人間関係、信頼関係も成立していることであろうから、その意味での安定したアルバイト先ということなのであろう。大学厚生課の斡旋による比率が僅かであるのは意外なことであった。

Q07. 1週間あたりのアルバイト日数：最頻度は「2日」29%であり、ついで「3日」27%である。日数が多いほうでは「6日」62人（5%）、「7日」17人（1.3%）の人がおり、勉強と休養の時間がどの程度とれるか心配である。

Q08. 1日あたりの時間数：「2時間」が全体の約4分の1で構成比として最も大きいが、「9時間以上」の4%を含めて「7時間以上」を合計すると全体の21.4%を占めている。

Q09. 現在のアルバイトの継続期間：「6ヶ月未満」が全体の45%と特に多いのは新学期が始ってまだ月数が少ないからであろうか。

Q10. 勤務時間帯：「夜」が58%、「午後（昼）」が24%である。「深夜」は9.4%であり、回答者の1割近くの学生が深夜の貴重な労働力として働いていることがこれから察することができる。

Q11. 現在のアルバイトの時給：第4表に示し

た時給額区分の構成比でグラフを描くとすれば山が2つあり、第1の山は「551円～600円」の15%、第2の山が「1,001円～2,000円」の32%である。中位数は「701円～800円」である。

この設問への回答は時給額をそのまま記入してもらったから、実際の回答時給額の範囲は、266円から最高は14,000円であり、その間のコラム数は99個、すなわち99段階の金額区分が存在した。この実際の金額に基づき計算したところ、該当全回答者1,264人の1時間当たりの平均額は、1,173円、中位数は800円となった。なお、全回答者を時給の低い額から高い額へ並べて4等分に分割して4グループをつくり、その各グループの平均額を求めたところつぎのようになった。第1・四分位570円、第2・四分位709円、第3・四分位1,222円、第4・四分位2,285円であった。

3) 現在のアルバイトに対する態度について

Q13. 時給満足度：満足（「はい」回答）は約50%で、そうでない人も50%いる。

Q14. 勤務時間満足度：「はい」は64%、「いいえ」が21%で3分の2が満足回答である。

Q15. アルバイトは収入の単なる手段か：「アルバイトは収入の単なる手段」とした回答者は31%である。他の人々は更に何らかの別の付加価値をアルバイトから得ているようである。

Q25. 今のアルバイトを楽しくやっているか：「はい」66%、「いいえ」9%である。3分の2の人が「アルバイトを楽しくやっている」という回答が出ており、他方1割弱がそうでないとの回答である。

Q29. 卒業までアルバイトを継続する意思の有無：卒業まで続けるは約3分の2の67%、そのつもりがない人は14%、「どちらともいえない」は19%である。

4) アルバイト先での職場風土とそこでの処遇について

Q20. 仕事ぶりが正しく評価されているか：「はい」は67%であり、3分の2が正しい評価を受けていると感じている。「いいえ」が4.5%、おおよそ20人に1人は、アルバイト先で自分の仕事ぶりに対して正しい評価を受けていない、と感じて

いる。

Q21. 仕事の上であなたの考えは聞き入れられているか：「はい」62%、「いいえ」13%であり、アルバイトをしている人全体の6割は聞き入れられている、と感じているが、7、8人に1人は聞き入れられていない、と感じている。

Q22. 仕事のことはかなりまかされているか：「はい」69%、「いいえ」9%であり、おおまかにいって7割の人がまかされており、1割弱がまかされておらず、残余の2割強の人は時に応じて「まかされたり、まかされなかったり」の状況にいる、と考えていることが、これから読み取れる。

Q24. アルバイトでストレスを感じているか：「はい」30%、「いいえ」47%、「どちらともいえない」23%である。3割の人がストレスを感じている。

Q26. アルバイト先での人間関係はうまくいっているか：「はい」は89%と比率が高い。「いいえ」は3%弱で、総じて人間関係はうまくいっているようである。

5) アルバイトと学業との兼ね合いについて

Q18. アルバイトは学業の妨げになると思うか：アルバイトは学業の妨げとする「はい」回答は14%、妨げにならないという「いいえ」は60%である。

Q19. 今の生活で、学業とアルバイトと、どちらのウェイトが大きいか：学業46%、アルバイト20%、どちらともいえない34%であり、あとの二者を合計すると54%が、学生生活の中でアルバイトに比重がかかった生活をしていることが判明した。

6) アルバイトは将来の職業生活や能力向上に役立つか

Q16. アルバイトはこれからの職業生活に必要なと思うか：必要（「はい」回答）と考えている人は67%である。仕事内容に回答が左右される面もあるであろうが、現在のアルバイトから得た経験や思考が、将来の職業生活に向けて役立つとする積極的な姿勢がそこにかかっている。

Q28. アルバイトはあなたの能力を高めるのに役立っているか：役立っていると思う人（「はい」

回答)は61%, そう思わない人(「いいえ」回答)は12%, 「どちらともいえない」とする人が27%である。あなたの能力, との間かけに, 回答者の脳裡に浮かんだ能力の内容は, この問自体からは確定できないが, しかし, 何であれ能力向上につながるのと能動的意識は, アルバイトへの積極的評価につながるものであろう。

7) アルバイトで得た収入の使途の実態について

Q17SQ1~Q17SQ7. アルバイトで得た収入の使途: 現在アルバイトをしている人のアルバイト収入使途を7種類にわたって聞いた結果であるが, 各費目に○印がついた比率のみを以下に列挙すれば, 次の通りである。1. 学費3%, 2. 生活費25%, 3. 遊び代68%, 4. 衣服代37%, 5. 教養費23%, 6. 自動車や旅行24%, 7. その他7%である。アルバイト収入使途のうち, 学費と生活費は, その内容の意味を考えると数字に出た%以上に重みを持っている。

8) アルバイト生活全体満足感

Q30. 今のアルバイト生活についての全体満足感: 満足な人(「はい」回答)は60%, 満足でない人(「いいえ」回答)は13%, 「どちらともいえない」は27%である。

(2) 学年別特徴

学年がすすむにつれて, 学生生活での履修状況も違ってくる。

1学年は朝1時限の必修科目が多い。4月, 5月は大学生活に慣れる時期であるから, 大学厚生課では, この2ヶ月は新生へへのアルバイト紹介は行っておらず, 6月から行っている。

2学年では3年進級への必須単位取得の関門があり, この学年での進級必須単位数を取っておかないと3年ゼミが履修できない。極めて少数の例外的事例ではあるが, アルバイトに身を入れ過ぎて, ここで何年も足踏みをし, 遂に退学してアルバイト先が本業になった中途退学者も過去に幾人かあった。長い目でみればそれも人生の一つの生き方ではあるが, 折角入学して在学しているからには, 何とか幾つかの関門を通過して無事卒業ま

でこぎつけて下さい, というのが私どもの願である。

ところで3学年になると研究演習I, いわゆる3年ゼミがあり, ゼミの予習・復習, 実験・実習で忙しいゼミも少なくない。3学年は専門科目履修が中心となり, 主専攻, 副専攻の選択必修科目の履修があるが, 人によっては極力3学年時に出来るだけ多くの単位数を取得して, 4学年では研究演習と実験・実習とを残す形にしたいと努力している人もいる。その他方で, 2学年次の必修科目である若干の科目が未履修で, 再履修組に回っている人もおり, なかにはこれが4学年まで続き背水の陣になることもある。いわば3年は双方の意味でそれぞれに頑張っている人々が存在するといえる。

4学年は, 3年間の累積の結果, 学生一人一人の単位取得状況が大きく異なっている学年である。単位を多く残している学生から, ゼミ関係の単位のみで学生まで幅が広い。したがって, 大学出席日数に比較的余裕がある学生から, 連日のように履修科目に追われている学生もある。アルバイト先やその時間も, 卒業までのタイム・スパンを考えて決めていると思われる。そうして4年時には, 就職活動があり, 企業訪問やその後の企業からの随時の呼び出し(試験, 面接)があるから, この時期には学生のアルバイトも減少することが考えられる。

学年別クロス集計結果については, 第4表右方に各質問項目毎に記したが, 将来にもし同種類の調査が行われるようなことがあれば, その場合の比較資料にもなるように, 同表左方の単純集計表に示したものと同一回答肢を用いて回答の実数と構成比を記すことにした。

1) 回答者属性からみた特徴

Q02. 性別: 学年別構成比で2年のみが女子学生比率が男子学生より上回っているが, この学年は, 他の学年と異なり, 女子学生在籍比率が1988年7月1日現在で52.1%と男子学生比率を上回っている学年である。なお, ついでに他の学年の同年同月同日現在女子学生比率を記すならば, 1年45.5%, 3年40.0%, 4年26.9%であり, 在籍者女子学生比率と比較して, いづれの学年も回答者

女子学生比率が上回っているが、これは女子学生のほうが男子学生よりも全体として出席状況が良いことの反映である。

Q04. アルバイト経験の有無別：「アルバイト経験が無い」比率は1年で18%と2割に近いが、2年、3年は2%台に激減し、4年では0.7%と1%を切っている。

Q04SQ1. アルバイト経験がある場合の回数：「アルバイト・変えない」人は1年で3分の1を占めているが、2年で20%、3年、4年でそれぞれ15.5%と学年が進むにつれて少なくなっているものの、考えようによっては、3年、4年で「変えない」という人が6人～7人に1人いる、ということも、「変えない」人も相当数いるということでもある。「11回以上変えた」人は、1年でも僅かながらあるが、2年、3年、4年と比率が上昇して、4年では17%となり、6人に1人の割合でそうである。

Q04SQ2. 以前のアルバイトの仕事内容：比率が高いものが3つ、すなわち「サービス」、「販売」、「教育」がある。「サービス」の学年別比率は、1年36%、2年32%、3年33%、4年29%と大きな変動はない。「販売」は、1年、2年が23%台で、3年、4年は20%、15%と減少傾向がある。ところが「教育」（塾の教師、家庭教師など）は、1年6%、2年18%、3年24%、4年22%と、1年から2年で3倍増し、3年でピークとなり、4年で微減している。「現場作業」「運輸・通信」は1年がそれぞれ11%で各学年中もっとも比率が高いが、各学年での増減の形に一貫性はない。察するにこの2つのアルバイト職種への選択・就労は定期的でなく、その都度か季節的な性格のものなのであろう。

2) 現在の仕事やその内容についての状況、労働条件などに関するもの

Q05. 現在のアルバイトの職種：各職種中最も構成比率が高いのが「教育」であり、1年33.3%と3分の1が、2年49%で約半数が、そうして3年45%、4年37%となっている。「サービス」は1年34%、2年23%、3年22%、4年30%、「販売」は1年18%、2年12%、3年10%、4年8%である。1年は、「教育」「サービス」「販売」の3つで

85%を占めており、残余の%が他の職種に広がっている。

Q06. 現在のアルバイトの情報経路：情報経路として最も多いのが「友人」である。「友人」という人脈からの経路は1年で32%、2年36%、3年47%、4年50%である。

Q07. 1週間当たりのアルバイト日数：1週間に「2日」と「3日」の双方の比率を合計すると各学年とも56%～57%で、過半数の人がこの2日型もしくは3日型の中に含まれる。「6日」「7日」は各学年ともアルバイトをしている人のうち数%の人がおり、連日のアルバイトは心身と勉強時間、自由時間から考えてもなかなか大変なことである。

Q08. 1日当たりの時間数：各学年で「2時間」が20%から30%で比率としては最も高いが、「3時間」から「5時間」にかけては10%台が続き以後は数%へとゆるやかに下降する。

Q09. 現在のアルバイトの継続期間：「6ヶ月未満」は1年96%であり、大学入学後にアルバイトをはじめた人々が殆どであることを示している。他学年での「6ヶ月」未満は2年で44%、3年30%、4年20%と減少し、逆に、「3年～3年6ヶ月未満」は4年で23%と多く、3年では4%と少なく、2年、1年は皆無であった。「2年～2年6ヶ月」は3年で27%、「1年～1年6ヶ月」は2年で35%と、同一アルバイトの継続期間は、仕事先の事情と仕事の内容によるところが大きいであろうが、続く条件があれば続くということがこれらことから窺える。

Q10. 勤務時間帯：比率が高い順からみれば、各学年とも「夜」が過半数であり、「午後（昼）」21%～28%、「深夜」6%～12%、「午前」5%～8%である。

Q11. 現在のアルバイトの時給：単純集計と同一の時給金額区分において各学年中もっとも高い比率を示した区分は1年「551～600円」と「1,001～2,000円」のいずれも23%、2年「1,001～2,000円」38%、3年「1,001～2,000円」36%、4年「1,001～2,000円」28%である。1年が総じて金額区分の低いほうへ百分比率が集まっている。

つぎに示した第5表は、全回答者の個々の時給額から、各学年の状況をみたものである。

第5表 アルバイト時給学年別四分位表

	平均時給	中位数	第1・四分位	第2・四分位	第3・四分位	第4・四分位
1年(N= 269)	1,038円	680円	537円	617円	861円	2,093円
2年(N= 347)	1,248円	900円	577円	719円	1,308円	2,554円
3年(N= 356)	1,202円	950円	579円	750円	1,347円	2,138円
4年(N= 292)	1,193円	800円	594円	739円	1,194円	2,332円
全体(N=1264)	1,173円	800円	570円	709円	1,222円	2,285円

(注：4分位グループの金額計算法は、前出の単純集計において、この該当項目の説明でも記したように、該当全回答者1,264人を学年別に時給の低い額から高い額へ並べて学年ごとに4等分に分割して4グループをつくり、その各グループの平均額を求めたものである。上掲の計算では4年の中にそれ以上の学学生9人を含めている。)

平均時給額からみれば、2年、3年が他学年に比べてやや高く、1年が最も低い。この傾向は、四分位の各グループにおいても同様であって、1年はアルバイトの労働市場への参入が近い最近のことであり、新規参入者として、この労働市場で比較的不利なところから出発していることの現れでもあろう。4年以上のグループも第3・四分位では1年に続いて低い金額となっており、学年が上がるとともに平均時給額が上がるとは限らないことを示している。

アルバイトはパートタイマーと同列のものである。パートタイマーの定義の中で簡潔で包括的なものを示せば次のものがある。「パートタイマーとは、正社員より1日の所定労働時間が短いか、1週の所定労働日数が少ない者。雇用期間の定め有無は問わない。」(労働省編『平成元年版 労働白書—高齢者雇用と女子パートタイム労働の現状と課題—』1989年7月 日本労働協会、290頁参照)となっており、これにアルバイトも含まれる。パートタイマーの賃金は、最低賃金法が示す金額を下回らず(最低賃金法が適用される)、新規高卒女子労働者(新規入職時は不熟練労働者扱い)の時間割り賃金に相当する金額がアルバイト賃金になっている、とは、よくいわれていることであるが、パート賃金は仕事内容により、継続期間・熟練度により賃金額の格差が大きい。アルバイトも同様で、仕事の内容と継続期間(それを処遇の考慮対象とするところとそうでないところがある)などにより時給の格差が大きい。今回の学生アルバイト調査で時給額を統計整理して気になった点は、仕事の内容にもよるが、時給が200円台、300円台、400円台の人が若干いることであ

り、この時給以外に現物給与があるのか無いか、または課業一括請負方式かどうかこの調査では不明である。今後と同種の調査を行う場合には、現物給与の有無や、情報処理派遣労働に見受けられるような請負方式の有無も一言聞いておくほうがよいのかもしれない。なお、パートタイマーには、労働省「パートタイム対策要綱」(1984年制定。1989年6月廃止、同年同月に指針が制定された。)に基づき、雇用主にはパートタイム労働者の処遇および労働条件改善およびパート雇用者に労働災害保険(雇用主が支払う保険)をかけることが労働省から通達されている。なお、1989年6月23日に労働大臣告示で新たに「パートタイム労働者の処遇および労働条件等について考慮すべき事項に関する指針」(労働省告示39号)が制定され指針の定着とその労働市場の円滑な業務調整のために「総合的パートタイム労働対策」が制定されている。多種多様な職種にアルバイトに出かける学生諸君は仕事の内容と時給には関心が向くだろうが、労働諸条件に一層の関心と労働災害などの危険に遭遇しないよう、特に留意されることを願っている。

3) 現在のアルバイトに対する態度について

Q13. 時給満足度：「満足」回答比率は、学年が上になる程、43%、47%、53%、55%と多くなる。「不満足」(「いいえ」回答)は1年36%、2年29%、3年29%、4年27%と続き、1年で3分の1強、2年以上で3割の人が不満を感じていることが示された。

Q15. アルバイトは収入の単なる手段か：「手段」(「はい」回答)とする人の比率は、1年の37%

から4年の22%へと漸減し、「単なる手段とは思わない」（「いいえ」回答）とする人の比率は学年の上昇とともに1年の35%から4年の54%へと漸増している。

Q25. 今のアルバイトを楽しくやっているか：「アルバイトを楽しくやっている」人の比率は1年61%，2年62%，3年65%，4年75%と、学年が上がるにつれて比率も上がっている。「楽しくやっている」に働く要因は多々あるであろうが、学年が上がるにつれて楽しくやっている、とする人が増加していることは、雇用主・雇用者関係からのみならず、本人が問題となる要因を減らしていった年月の軌跡を示すものであろう。

Q29. 卒業までアルバイトを継続する意思の有無：「どちらともいえない」という迷いの中にある回答は1年が26%と各学年中最も高い。継続意思である「はい」回答は1年の55%から、4年76%と学年によって幾らか差があるものの、現在アルバイトをしている人の半数から4人中3人までが、継続意思を持っている。

4) アルバイト先での職場風土とそこでの処遇について

Q20. 仕事ぶりが正しく評価されているか：仕事ぶりがアルバイト先で正しく評価されている、と思っている人（「はい」回答者）は、1年60%，2年65%，3年68%，4年77%である。正しい評価を受けていない、と思っている人（「いいえ」回答者）は学年で異なるもの3%から6%である。「どちらともいえない」との回答者は1年35%，2年31%，3年26%，4年20%と学年が上がるにつれて減少している。正しい評価を受けているかどうかについての認知は、アルバイト先への信頼関係、仕事への動機づけ・仕事意識にも影響を及ぼす大きな要因であり、アルバイト先では、このことの重要性を十分に認識しておくことが必要である。

Q21. 仕事の上であなたの考えは聞き入れられているか：この設問は、職場で下意上達があるかどうか、を聞いたものであり、上からの一方的な命令伝達のみで終始する仕事場では、判断処理や創意工夫の余地がなく働く意欲は減じてしまう。アルバイト先はその点でどうなのか、回答結果で

は、下意上達がないという「いいえ」回答は1年で16%，2年で14%，3，4年で1割前後であり、「どちらともいえない」は1年32%から4年22%へ学年が上がるにつれて漸次減少している。そうして、下意上達がある（聞き入れられている）とする「はい」回答は、1年52%から4年67%へと増加しており、アルバイト学生の存在が仕事先で重きをないしていることがうかがえる。

Q22. 仕事のことはかなりまかされているか：仕事をまかされる、ということは、権限と責任が与えられていることを示唆する。まかされている、との「はい」回答者は1年56%，2年67%，3年72%，4年80%で、おそらく、学年が上がる、勤続年数が長い、仕事に熟達している、社会人としての成長、人間的に信頼できる、アルバイトであるが基幹従業員とみなされている、などの複合要因が働いているのであろう。

Q24. アルバイトでストレスを感じているか：アルバイトでストレスを感じる、についてはその理由質問を行っていないので、何によってストレスが生じているか理由は不明である。しかし、とにかく何によらず、「アルバイトでストレスを感じている」の「はい」回答は、1年で30%，2年34%，3年31%，4年24%であり、ストレスを感じていない「いいえ」回答は4年が57%で各学年中最も多く、1年と3年が46%，2年は41%であり、残余の比率が「どちらともいえない」である。

Q26. アルバイト先での人間関係はうまくいっているか：人間関係がうまくいっているかどうかは、一般に当事者にとって職場雰囲気根幹に結びつくものであり、人間関係が良ければ従業員相互や使用者への信頼関係が醸成される。人間関係がうまくいっているとの「はい」回答は1年77%，2年83%，3年84%，4年90%で、大多数は「人間関係はうまくいっている」と知覚している。「うまくいっていない」の「いいえ」回答は、1年～3年は2%～3%，4年1%で少ないが、当事者にとっては気が重い問題だと思われる。

5) アルバイトと学業との兼ね合いについて

Q18. アルバイトは学業の妨げになると思うか：妨げとする「はい」回答は1年11%，2年14%，3年17%で学年が上がるともに微増して

いるが、4年で13%と若干減っている。妨げになっていない、との「いいえ」回答は各学年とも60%前後であり、「どちらともいえない」は状況の変化に応じて、妨げとなったりならなかったりするのであろうが、1年は31%、2年以上はいずれも24%~25%の範囲である。

Q19. 今の生活で学業とアルバイトとどちらのウェイトが大きいか：「学業」とする回答は各学年とも40%台であり、1年45%、2年44%、3年49%、4年44%である。「アルバイト」にウェイトが大きいと回答する回答者比率は、1年22%、2年20%、3年16%、4年24%である。「どちらともいえない」は各学年とも3分の1前後の人々であった。

6) アルバイトは将来の職業生活や能力向上に役立つか

Q16. アルバイトはこれからの職業生活に必要なと思うか：アルバイトがこれからの職業生活に必要なと思う、との予想は、アルバイト経験が将来きつとプラスに作用するであろうとのアルバイトに積極的な評価を見出す視点が持てるかどうか、ということを知っているものである。「必要だ」は1年67%、2年72%、3年65%、4年65%である。

Q28. アルバイトはあなたの能力を高めるのに役立っているか：アルバイトも職業生活の一つであり、仕事の内容のみならず、それに関連した決断力と実行力、先見性などが、そうして対人関係への適応力が不断に求められ、こうしたことは常識的に考えて将来、他の職業についても、役に立つと思われる。「役に立つ」との「はい」回答は、1年56%、2年62%、3年59%、4年69%である。他方で「能力向上に役立たない」との回答は、1年から3年の間で11%から15%へと微増し、4年で8%と減少する。こうした回答をした人は裁量の余地がない仕事についているのであろうか。

7) アルバイトで得た収入の用途の実態について

Q17SQ1~Q17SQ7：アルバイト収入の用途を費目別に○印がついた比率から取上げることにする。全般的にいえることは、アルバイト収入は多

費目に多目的に使用されている、ということであり、各学年間にそれぞれの使途費目での比率において際立って大きな差異は見受けられないが、強いていえば、4年では、生活費や教養費に使う人の割合が増え、衣服代に使う人が他学年より減るという程度である。回答者の6割が遊び代に○印をつけているのが目につくが、喫茶店でのダベリ代もここに含まれているのであろう。

Q17SQ1「学費」については、各学年は2%から4%の間である。Q17SQ2「生活費」については、1年、2年はともに19%台であるが、3年で28%、4年で33%となり、4年では実に3分の1の人が生活費に使っている。Q17SQ3「遊び代」については、1年69%、2年66%、3年72%、4年63%と各学年とも比較的比率が高い。Q17SQ4「衣服代」は1年46%、2年43%、3年32%、4年29%と学年が上がるもともに減少している。Q17SQ5「教養費」は1年から3年の各学年が21%台であるが、4年では27%である。Q17SQ6「自動車や旅行」はこれも1年が20%、他学年は20%台半ばであり、旅行の為にバイトをする、ということは喧伝されている程には多くなかった。

8) アルバイト生活全体満足感

Q30. 今のアルバイト生活についての全体満足感：学年が上がるにつれて「はい（満足）」回答の比率が上昇している。1年50%、2年58%、3年58%、4年76%であり、アルバイト先での処遇、アルバイトと学業生活の間のバランスや生活のリズムなどが一応出来上がったところで卒業期となるのであろう。「いいえ（不満足）」回答は1年18%、2年13%、3年14%、4年7%であり、1年は5人に1人が、2、3年は7人に1人が不満足感を持っている。

(3) 3年、4年ゼミの専攻類別傾向

3年で研究演習Ⅰを4年で研究演習Ⅱを履修するが、1類（理論）、2類（社会福祉）、3類（広報）、4類（産業社会）の4つの類にゼミ群を分けて回答比率を比較してみた。なお、その際に、1類（理論）を更に心理学系のゼミとそれ以外とに分けみたが、その理由は学生の話の中に、心理学は実験があり、ことに卒業論文で実験を行って

るとなかなかアルバイトの時間がないのとちがい(違い)ますか、ということ聞いたからである。ゼミの専攻類別でのクロス集計は学年別クロスと同様にカイ二乗検定で有意水準が $P < 0.05$ のもの稀であり、多くは有意差なし(n. s. = no significance)であった。ここでは紙幅の都合もあり、第6表に示したように極く一部のクロス表を提示するとどめた。

Q05. 現在のアルバイトの職種:「教育」が2類

社会福祉で3, 4年ともに52%と他専攻にくらべて比率が高い。

Q07. 1週間当たりのアルバイト日数:「1日または2日」が3, 4年ゼミ全体で30%の比率を示しているが、1類心理系4年は49%とアルバイト日数が少ないほうでの比率が高い。

Q08. 1日当たりの時間数:3年ゼミ, 4年ゼミともに, 1類心理系と2類社会福祉が他専攻に比べて「1時間~3時間」の比率が高い。

表6 ゼミの専攻類別にみたクロス集計

%

		計		3年ゼミ					4年ゼミ				
				1類理論		2類	3類	4類	1類理論		2類	3類	4類
				除心理	心理	社会福祉	広報	産業社会	除心理	心理	社会福祉	広報	産業社会
計		N	%	N=189	N=47	N=62	N=70	N=82	N=161	N=37	N=43	N=74	N=69
Q02. 性別	1. 男性	503	60.3	64.0	44.7	33.9	51.4	69.5	69.6	54.1	37.2	50.0	89.9
	2. 女性	331	39.7	36.0	55.3	66.1	48.6	30.5	30.4	45.9	62.8	50.0	10.1
	計	834	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q05. 現在のアルバイトの内容 ***	1. 現場と運輸通信	58	9.5	8.9	5.7	4.5	12.1	8.7	12.6	—	6.9	—	24.5
	2. 販売	54	8.8	9.7	11.4	4.5	7.6	15.9	9.9	—	10.3	—	10.2
	3. サービス	160	26.2	28.4	22.9	13.6	22.7	26.1	31.5	35.7	10.3	34.8	22.4
	4. 事務,専門,その他	90	14.7	12.7	11.4	25.0	12.1	10.1	15.3	21.4	20.7	23.9	6.1
	5. 教育	249	40.8	40.3	48.6	52.3	45.5	39.1	30.6	42.8	51.7	41.3	36.7
	計	611	100.0	(134人)	(35人)	(44人)	(66人)	(69人)	(111人)	(28人)	(29人)	(46人)	(49人)
Q07. 一週当たりのアルバイト日数	1. 1日又は2日	253	30.3	25.4	34.0	29.0	31.4	35.4	29.2	48.6	34.9	25.7	30.4
	2. 3日又は4日	272	32.6	32.3	38.3	32.3	41.4	32.9	29.2	24.3	25.6	36.5	33.3
	3. 5日以上	309	37.1	42.3	27.7	38.7	27.1	31.7	41.6	27.0	39.5	37.8	36.2
	計	834	100.0	(189人)	(47人)	(62人)	(70人)	(82人)	(161人)	(37人)	(43人)	(74人)	(69人)
Q08. 1日当たりの時間数	1. 1~3時間	254	30.5	28.0	40.4	43.5	38.6	34.1	21.7	37.8	32.6	24.3	27.5
	2. 4時間以上	580	69.5	72.0	59.6	56.5	61.4	65.9	78.3	62.2	67.4	75.7	72.5
	計	834	100.0	(189人)	(47人)	(62人)	(70人)	(82人)	(161人)	(37人)	(43人)	(74人)	(69人)
Q19. ウェイトのかけ方 ***	1. 学業	291	46.5	39.0	66.7	53.2	55.7	46.5	36.3	69.0	67.9	42.9	35.8
	2. アルバイト	122	19.5	22.1	10.3	6.4	23.0	14.1	26.5	13.8	17.9	24.5	18.9
	3. どちらとも	213	34.0	39.0	23.1	40.4	21.3	39.4	37.2	17.2	14.3	32.7	45.3
	計	626	100.0	(136人)	(39人)	(47人)	(61人)	(71人)	(113人)	(29人)	(28人)	(49人)	(53人)
Q20. 仕事で正しい評価 *	1. はい	449	71.7	69.9	76.3	74.5	67.2	59.2	65.5	89.7	72.4	79.6	88.7
	2. いいえ	30	4.8	5.9	2.6	8.5	3.3	5.6	6.2	—	3.4	—	5.7
	3. どちらとも	147	23.5	24.3	21.1	17.0	29.5	35.2	28.3	10.3	24.1	20.4	5.7
	計	626	100.0	(136人)	(38人)	(47人)	(61人)	(71人)	(113人)	(29人)	(29人)	(49人)	(53人)
Q24. ストレスを感じる ***	1. はい	174	27.7	30.7	25.6	40.4	22.6	36.6	26.5	13.8	17.2	16.3	30.2
	2. いいえ	320	50.9	48.9	56.4	44.7	45.2	33.8	54.9	72.4	34.5	65.3	62.3
	3. どちらとも	135	21.5	20.4	17.9	14.9	32.3	29.6	18.6	13.8	48.3	18.4	7.5
	計	629	100.0	(137人)	(39人)	(47人)	(62人)	(71人)	(113人)	(29人)	(29人)	(49人)	(53人)
Q30. アルバイト生活全体満足感 ***	1. はい	417	66.3	62.0	69.2	63.8	56.5	45.1	72.6	82.8	65.5	73.5	88.7
	2. いいえ	70	11.1	13.1	5.1	17.0	17.7	15.5	9.7	6.9	3.4	8.2	3.8
	3. どちらとも	142	22.6	24.8	25.6	19.1	25.8	39.4	17.7	10.3	31.0	18.4	7.5
	計	629	100.0	(137人)	(39人)	(47人)	(62人)	(71人)	(113人)	(29人)	(29人)	(49人)	(53人)

χ² 検定の結果を、 $P < 0.05$ を*、 $P < 0.01$ を**、 $P < 0.001$ を***で示す。

Q10. 勤務時間帯：1類心理系は「夜」の比率が他専攻に比べて3，4年ともに高い。

Q19. 今の生活で学業とアルバイトとどちらのウェイトが大きいか：3，4年ゼミ全体では「学業のウェイトが大きい」46.5%，「アルバイトのウェイトが大きい」19.5%，「どちらともいえない」34%である。これらの全体比率を上回っている専攻類別を取上げると、「学業のウェイトが大きい」では3年1類心理系67%，3年3類広報56%，3年2類社会福祉53%，4年1類心理系69%，4年社会福祉68%である。「アルバイトのウェイトが大きい」では，3年3類広報23%，3年1類（心理系を除く）22%，4年1類（心理系を除く）27%，4年3類広報25%となっている。これから察するに，1類心理系と2類社会福祉は学業型が平均比率よりやや多く，1類（心理系を除く）はアルバイト比重組がやや多く，3類広報は学業型とアルバイト型とに二極分解されている傾向をみせている。

Q24. アルバイトでストレスを感じているか：3，4年ゼミ全体では「ストレスを感じている」27.7%，「感じていない」50.9%，「どちらともいえない」21.5%であるが，3年と4年では，3年のほうが総じてストレスを感じている人の割合が高い。しかし，同じ3年でも2類社会福祉40%，4類産業社会37%の二つの類が「ストレスを感じる」人が他の類より多くなっている。4年の類別では，「ストレスを感じていない」比率が高いところは，1類心理系72%であり，続いて3類広報65%，4類産業社会62%である。

Q30. 今のアルバイト生活についての全体的満足感：3年と4年ゼミ全体では「満足」66%，「不満足」11%，「どちらともいえない」23%である。この全体の平均比率を上回っている類専攻を取上げると，「満足」回答は，3年は1類心理系69%のみであり，4年では4類産業社会89%，1類心理系83%，3類広報74%，1類（心理系を除く）73%と続き，2類社会福祉が同比率の66%となってい

る。「不満足」は3年では1類心理系のみが5%で平均を下回っており，4年各類では軒並みに3%から10%までの間に収まっているが，ここでは2類社会福祉が3%で不満者が少ないのが目につく。しかし，この4年2類社会福祉では「どちらともいえない」が31%と他に比べて高く，満足・不満足の間幅が大きいようである。

(4) 男女別分析—クロス集計結果と多変量解析

今日，大学生になれば，アルバイトするのが当たり前前と考える，いわゆる「アルバイトのカスタム化³⁾」が進行している。このことは別の言葉でいえば，いまやアルバイトをすることがきわめて当然と受けとられていることであり，ここでの学生はわれわれが，抱いていたアルバイトに苦学生という昔のイメージでもはや捉えることができない。

そこで本節で紹介するアルバイトデータは，目次1. 2で紹介された調査の内容を次の三点，アルバイトの諸相，アルバイトの与えた影響，これからのアルバイトについてという観点から，これを男女別，職種別クロス集計と多変量解析（林数量化Ⅱ類）両結果の一部を使って，現代学生（ここでは関学大社会学部生ということになるが）のアルバイト像の特徴を描き出してみようとするものである。

1) 性差のないアルバイト経験率

(Q04 アルバイト経験の有無)

男女別の経験率は，男性95.4%，女性92.2%で殆ど性差がない。このことは，最近の学生でアルバイト経験の無い学生は殆どないといってよいであろう⁴⁾。ちなみに，未経験の割合は，全体の6.1%に対し，男性4.6%，女性7.8%である。(図1)

2) 回数の頻度の多い男性と少ない女性

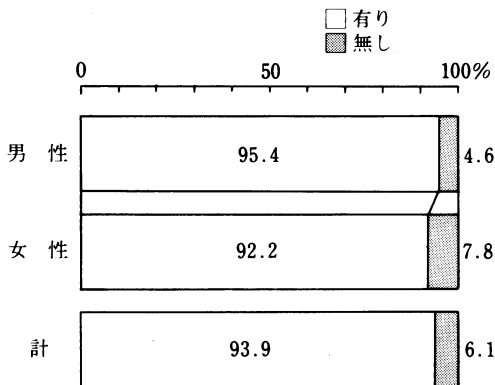
(Q04SQ1 アルバイト経験の回数)

アルバイトの諸相をみる一つの質問で「アルバイトの経験ある場合，何回アルバイトを変えた

3) 監修者/扇谷正造/千石 保「昭和60年版アルバイト白書」学生援護会 1985年 33ページ。

4) 前掲書「アルバイト白書」のアルバイト経験率（性別/日本）をみると，昭和55年，60年ともに男性94.1%，女性93.3%であり，また，関西学院大学 学生部「学生生活実態調査報告書」第6回調査（1987年）アルバイト就業状況結果においても，アルバイトを「まったくしていない」者は，10%前後で，いまや性を問わず大部分の学生は何らかの形でアルバイトに従事しているという調査データが随所にみうけられる。

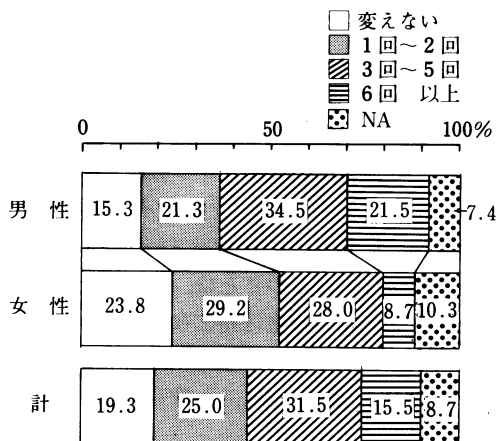
図1 Q04アルバイト経験の有無(性別)



資料出所：遠藤 西山 牧
「社会学部学生アルバイトの実態調査」1988年

か」という本人の経験回数の回答において顕著な差がみられる。すなわち、男性は、経験回数の多い3回～5回34.5%、6回以上21.5%でその合計比率は56%と5割以上を占め、これに対して女性は、変えない23.8%、経験回数の比較的少ない1回～2回29.2%でその合計比率は53.%と半数以上を占めている。(図2) このことは、前述1)の

図2 Q04S Q1 アルバイト経験の回数



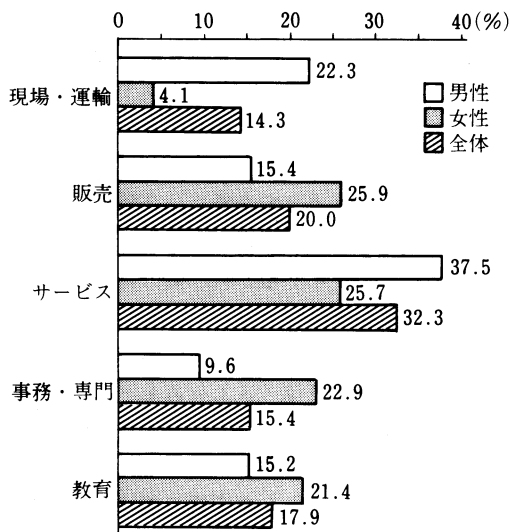
資料出所：遠藤、西山、牧、前掲の「実態調査」1988年
アルバイト経験率で、全く性差がなかったが、経験回数のようなアルバイトの本人属性や職種、アルバイトの持つ意味等においては性差が予測される。

3) 前回のアルバイトの内容では男性はサービス業務、女性は販売に携わる仕事

(Q04S Q2 前回のアルバイト内容)

前回のアルバイトの内容をみると、前項で予想したことであるが、職種内容に男女差がうかがえる。まず目につくのは、「サービス業務」では男性37.5%に対し、女性25.7%、「販売にたづさわる仕事」では女性25.9%に対し、男性15.4%である。その他では「現場・運輸」で男性が多く、「事務・専門」、「教育」などでは女性が多くなっている。(図3) ちなみに、「サービス」や「販売」に学生

図3 Q04S Q2 前回のアルバイトの内容



資料出所：遠藤、西山、牧、前掲の「実態調査」1988年

が多く希望するのは、そこに選択の幅が大きいことが一つの理由ではないだろうか。

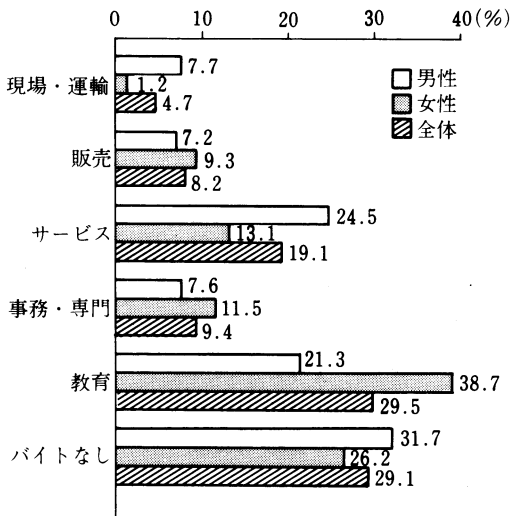
4) 現在のアルバイトの職種は男性でサービス業、女性で教育

(Q05 現在のアルバイトの職種)

現在の職種の特徴を「バイトなし」を除いてみると、やはり目につくのは、女性の「教育」の比率で38.7%約3人に1人がなんらかの形で教育関係のアルバイトについており、男性の比率21.3%5人に1人に比べ圧倒的である。この理由については、種々考えられるが、学生援護会の昭和60年調査結果においても、家庭教師・コーチ等において女性は男性に比べ高い比率⁵⁾がみられ、「教員業」を女大生が多く占めているのが最近の傾向であろう。

5) 男性の44.2%に対し、女性は60.4%にもなる。前掲書「アルバイト白書」49ページ。

図4 Q05 現在のアルバイトの職種



資料出所：遠藤，西山，牧 前掲の「実態調査」1988年

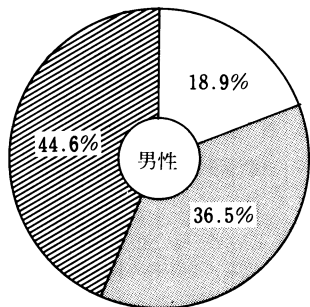
一方、男性の最頻値は、前回のアルバイトの内容と同じくサービス業務である。(図4)

5) 情報経路は男性は友人で女性は広告等

(Q06 現在のアルバイトの情報経路)

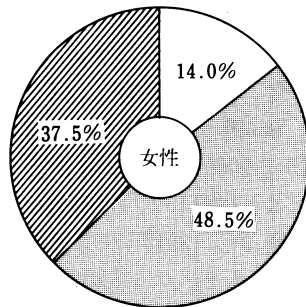
情報経路については、顕著な性差がみられる。図5にみるように男性は友人の比率が44.6%と高く、約2人に1人の割合となっている。これに対して、女性は広告等48.5%とこれまた半数に近い割合である。このことは、情報は自分にとって身近なところから入手していることがうかがえ、とりわけ、男性は友人というもっとも身近なところ

図5-1 Q06 アルバイトの情報経路(男性)



項目名	情報経路	%
□	ニュース	124人 18.9
■	広告等	240 36.5
▨	友人	293 44.6
	合計値	657

図5-2 Q06 アルバイトの情報経路(女性)



項目名	情報経路	%
□	ニュース	86人 14.0
■	広告等	299 48.5
▨	友人	231 37.5
	合計値	616

注) 図5-1, 図5-2以下ならびに表7以下の資料出所はすべて前掲の「実態調査」

から入手していることは大変に興味深い。また、アルバイト情報提供の王様といわれるアルバイトニュースが男性、女性ともに低かったのはこれまた意外であった。(図5-1, 図5-2)

6) アルバイト日数は男性、女性、ともに3日から4日

(Q07 1週間当たりのアルバイト日数)

アルバイトの日数についての特徴的な点は、男性658人のうち、3日又は4日が45%で最も高く、これに対して、女性は、628人のうち、1日又は2日が43%、3日又は4日は46%、5日以上11%で、やはり3日又は4日の割合が最も高く、2人に1人の割合となっている。以上のように男性は、1週間内でアルバイトについてやす日数が非常に多く、一方女性の方も男性と同じ傾向がうかがえ、勉学や休養等は何時どのようにするのであろうか。(表7)

7) 男性は夜・深夜型・女性は午前・午後型

(Q10 勤務時間帯)

労働条件として特に注目されるのは、女性の夜の勤務比率が男性のそれを上回っている点である。このことは、女性の勤務にも最近では夜まで及んできていることをうかがわせるものである。そして、男性では、夜・深夜を合わせると実に7割を超える。また、女性の午前と午後(昼)は32.5%で勤務時間帯の約三分の一にあたる。(表8)勤務時間帯の時系列変化の最近の資料⁶⁾では、夜・深

6) 小山義雄，金子敬子「学生アルバイトの現状分析」日本労働協会雑誌 No. 345 May 1988, 51 ページ

表7 Q071週間当たりのアルバイト日数

	1日又は2日	3日又は4日	5日以上	計
男性	241 (36.6)	296 (45.0)	121 (18.4)	658 (100.0)
女性	270 (43.0)	289 (46.0)	69 (11.0)	628 (100.0)
計	511 (39.7)	585 (45.5)	190 (14.8)	1,286 (100.0)

$\chi^2=15.2695$ SIG.=0.0005 PEARSON'S R=-0.0990 SIG.=0.0002
NUMBER OF MISSING OBSERVATION=542

表8 Q10勤務時間帯

	午前と午後(昼)	夜	深夜, その他	計
男性	193 (29.2)	360 (54.5)	107 (16.2)	660 (100.0)
女性	203 (32.5)	388 (62.1)	34 (5.4)	625 (100.0)
計	396 (30.8)	748 (58.2)	141 (11.0)	1285 (100.0)

$\chi^2=38.1699$ SIG.=0.0000 PEARSON'S R=-0.11381 SIG.=0.0000
NUMBER OF MISSING OBSERVATION=543

表9 Q11現在のアルバイトの時給

	~880円	801~2,000円	2,001円以上	計
男性	367 (56.7)	237 (36.6)	43 (6.6)	647 (100.0)
女性	289 (46.8)	283 (45.9)	45 (7.3)	617 (100.0)
計	656 (51.9)	520 (41.1)	88 (7.0)	1,264 (100.0)

$\chi^2=12.68415$ SIG.=0.0018 PEARSON'S R=0.08465 SIG.=0.0013
NUMBER OF MISSING OBSERVATION=564

夜型は昭和44年18.1%であったが15年後の昭和59年には56.7%と約3倍以上となっている。これは女性の勤務時間帯そのものの資料ではないが、注目してよいと思われる。

8) 男性は時給800円までが半数を占める

(Q11 現在のアルバイトの時給)

時給についての男女差を概していえば、男性647人のうち、800円までが56.7%と半数を占め、次いで801円から2000円までで36.6%、約3人に1人の割合、これに対して、女性は617人のうち800円までが46.8%、801円から2000円までが45.9%で、いずれも2人に1人の割合となっている。(表9)

9) アルバイト収入の使途では男性は遊び代、女性は遊び代と衣服代

(Q17 アルバイト収入の使途)

表10と表11は、MULTIPLE RESPONSE (多重回答) による変数 Q1701~Q1706 をまとめた表とそのクロス表であり、これまでの統計量の算出や各

表10 Q17アルバイト収入の使途

(多重回答式で2つまで N=1267)

	値	度数	ケース数%
Q1701	学 費	38	3.0
Q1702	生 活 費	318	25.1
Q1703	遊 び 代	869	68.6
Q1704	衣 服 代	474	37.4
Q1705	教 養 費	290	22.9
Q1706	自動車旅行	300	23.7
	計	2,289	180.7

1267 VALID CASES 561 MISSING CASES
ケース数%=度数/全体の人数×100

種検定によって、関連の度合を把握するといった方法でなく、表としての見易さや、分布の直観的把握という目的に奉仕するサブプログラムを活用して作成したものである。収入の使途は、表10にみられるように「遊び代」と「衣服代」のケース数%が多く、表11の男女のクロス表では、使途として男性は「遊び代」を、女性は、「衣服代」をあ

表11 Q17アルバイト収入の用途(性別) (度数/ケース数%)

性別	学費	生活費	遊び代	衣服代	教養費	自動車旅行
男性 (N=652)	27 4.1	232 35.6	475 72.9	130 19.9	147 22.5	133 20.4
女性 (N=615)	11 1.8	86 14.0	394 64.1	344 55.9	143 23.3	167 27.2

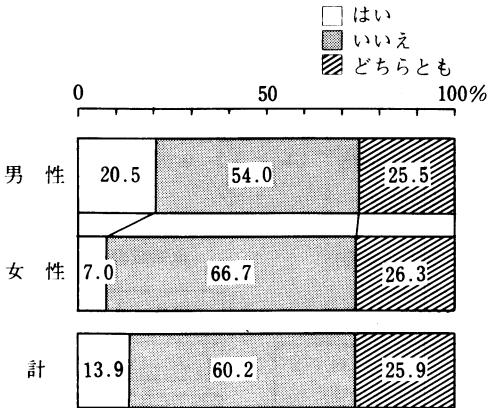
1267 VALID CASES 561 MISSING CASES
男女のケース%=度数/男女各々の人数×100

げる者が多く⁷⁾、また男女とも「遊び代」をあげる者が多いことがわかる。

10) 男性は5人に1人が学業の妨げとしている
(Q18 アルバイトは学業の妨げになるか)

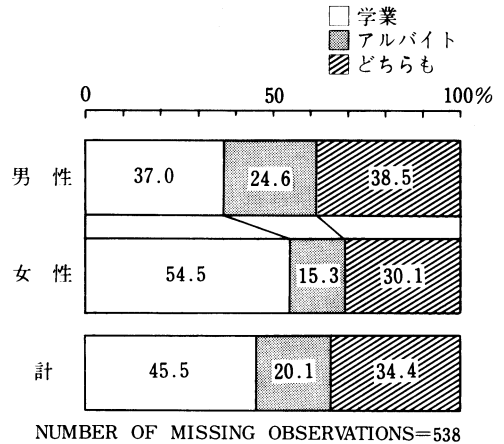
この設問は、アルバイトの与えた影響のマイナスの要因として捉えることができる。図6をみると男性は、20.5%約5人に1人が「学業の妨げ」となると回答している。女性は「学業の妨げ」になると回答した比率は7%と非常に少ない。アルバイトの与える影響として、マイナス要因として捉えているのは男性⁸⁾の方であることがわかる。(図6)

図6 Q18 学業の妨げとなるか



る。女性は、「学業」にウェイトが大きいとする比率が54.5%で半数を超え、男性は、37%、3割強である。女性に「学業」重視の姿がうかがえる。(図7)

図7 Q19 学業とアルバイトのウェイト



12) 女性は7割が卒業までアルバイト継続
(Q29 卒業までアルバイトを続けるか)

これからのアルバイトについても顕著な差がみられる。「卒業までアルバイトを続ける」とする者は男性60.8%に対し、女性は74.4%にもなる。女性にアルバイトに対する継続意思の強さとアルバイトのもつプラス要因が作用しているのかもしれない。(図8)

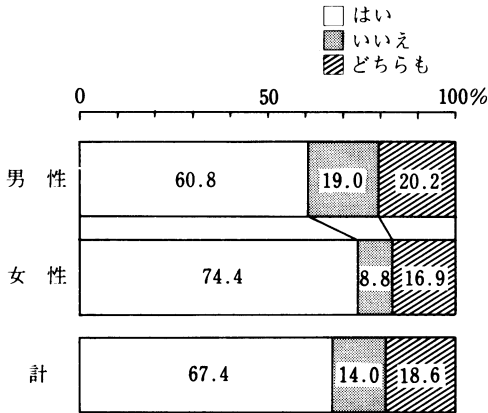
13) 性別パターンの変量解析

前節までは、アルバイトの諸相、アルバイトの与えた影響、そしてこれからのアルバイトという観点から、男女別クロスを中心に分析をすすめて

11) 女性に学業とする者が半数を占める
(Q19 学業とアルバイトのウェイト)
学生生活での「アルバイト」と「学業」との兼ね合いについては、かなり大きな性差がみられ

7) 男性は「交際・娯楽費」、女性は「衣服代」が多いという同じ結果が、1987年の関学大学生部の「学生生活実態調査報告書」にある。同報告書31ページ
8) また、男性はアルバイトの影響として、「学業の妨げ」をマイナス要因としてあげ、しかもそれが種々の要因のなかで上位を占めている。前掲書「アルバイト白書」61ページ

図8 Q29 卒業までのバイト継続



NUMBER OF MISSING OBSERVATIONS=537

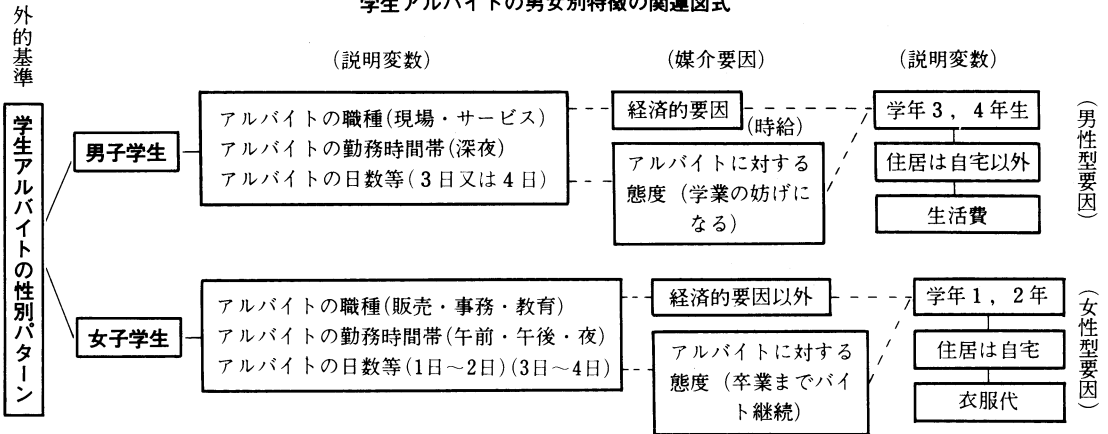
きた。その結果、「アルバイト経験」は性差がなく、すでに、学生生活の一部になっていること、「アルバイト経験回数」では、男子学生は、「変える」とする回数が多く、女子学生は、それとは反対に「あまり変えない」、また、「前回のアルバイトの内容」は、「サービス業務」が男性、「販売」が女性と両者ともほぼ同じ内容の仕事であったが、「現在の職種」をみると、その職種が女子学生で変わり、「教育関係」の仕事、つまり、家庭教師や塾の教師等が増えた。「情報入手経路」は男性は友人、女性は、広告等とその入手の方法に性差がみられ、「アルバイト日数」では、男性・女性ともに多く、「勤務時間帯」は、男性は深夜、女性は午前と午後、「時給」では、男性は低く、女性は低い

方と高い方に分散している。「収入の使途」は、男性が生活費、女性が衣服代、そして、アルバイトの与えた影響で、「学業の妨げ」になると考えているのは男子学生であり、女子学生はそうとは考えていない。そして、これからのアルバイトについて「卒業までアルバイトを継続する」のは、女子学生であり、一方、男子学生は、継続を考えていない。このようにクロス分析の随所にその考え方の差があることがうかがえた。そこで、以上の結果は、クロス分析の一部であるが、ここに学生アルバイトの男女別の特徴を以下に仮説的関連として図示してみた。

上に示された仮説的関連図式は、今回の男女別を基準としたクロス集計での本人属性要因、労働条件要因、アルバイトに対する態度要因の計13要因は、図1 Q04 アルバイト経験の有無を除き有意な相関があった。そこで、これらの諸要因の関連をなお一層インテンシブに分析するために、本人属性の「学年」、「住居」を加えた学生アルバイトの性別パターンを外的基準として「男女」別に林数量化Ⅱ類の方法による計測を行った。

表12は、外的基準（性別）の基準化されたグループ（カテゴリー）数量、相関比ならびに、各アイテムの基準化されたカテゴリー数量、その範囲と影響率、外的基準との偏相関係数を示し、図9と図10は各アイテムの基準化されたカテゴリー数量および範囲⁹⁾（レンジ）を図示したものであ

学生アルバイトの男女別特徴の関連図式



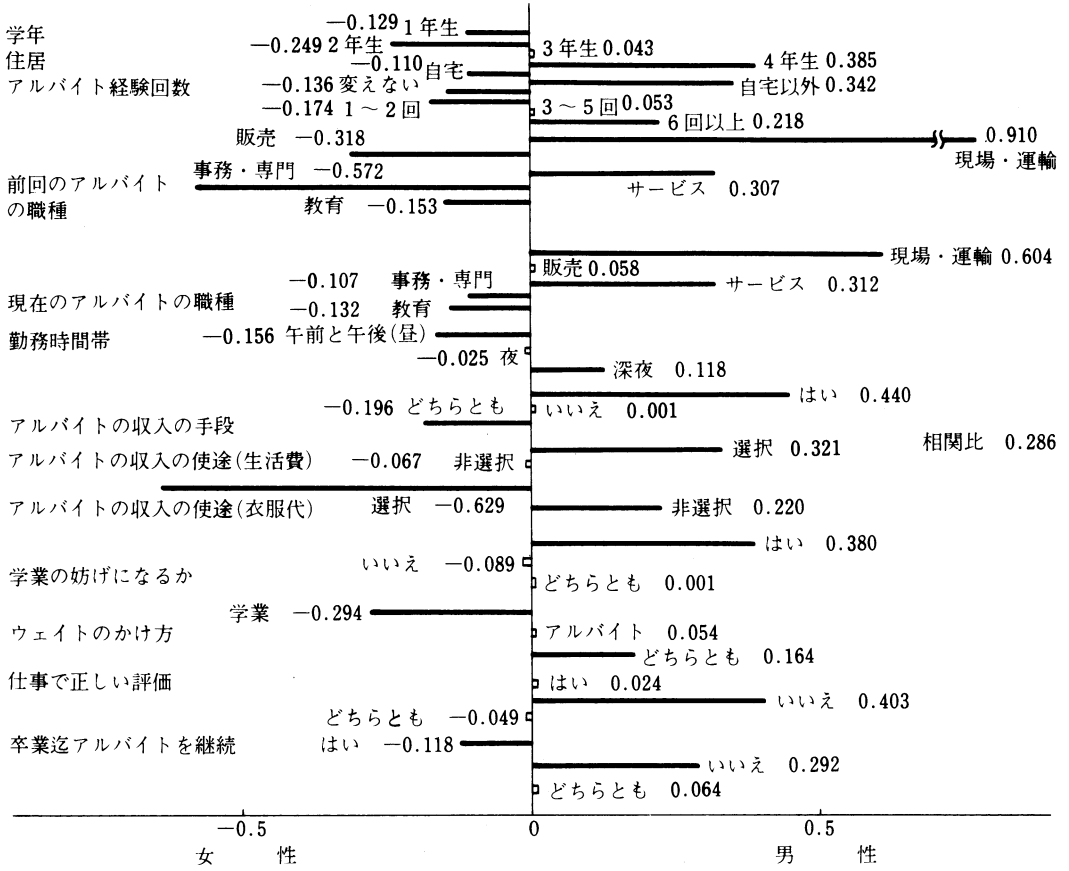
9) 範囲（レンジ）とは、統計数量を大きさの順に並べたとき、変量中の最も大きい値と、最も小さい値の差のこと。川辺勝次「統計グラフ」実業之日本社 1981年 80ページ
また、表12、図9、図10の解析結果の説明については、木下栄蔵著「多変量解析入門」啓学出版 1988年を参考にした。

表12 外的基準(性別)の基準化されたカテゴリー数量, 相関比ならびに各アイテムの基準化されたカテゴリー数量, その範囲と影響率および偏相関係数

アイテ ム	カテ ゴ リ ー	頻 度	カテゴリー数量	範 囲	影 響 率	偏相関係数
Q01 学 年	1年	483	-0.129	0.634⑤	8.26⑤	0.141③
	2年	475	-0.249			
	3年	450	0.043			
	4年	420	0.385			
Q03 住 居	1. 自宅	1,382	-0.110	0.452⑧	5.9 ⑨	0.117⑥
	2. 自宅以外	446	0.342			
Q04sq1 アルバイト経験の回数	1. 変えない	352	-0.136	0.392⑩	5.1 ⑪	0.094⑧
	2. 1回~2回	457	-0.174			
	3. 3回~5回	575	0.053			
	4. 6回以上	444	0.218			
Q04sq2 前回のアルバイトの内容	1. 現場と運輸・通信	197	0.910	1.482①	19.31①	0.249①
	2. 販売	275	-0.318			
	3. サービス	444	0.307			
	4. 事務, 専門, その他	212	-0.572			
	5. 教育	700	-0.153			
Q05 現在のアルバイトの職種	1. 現場と運輸・通信	82	0.604	0.736③	9.5 ③	0.123⑤
	2. 販売	144	0.058			
	3. サービス	337	0.312			
	4. 事務, 専門, その他	166	-0.107			
	5. 教育	1,099	-0.132			
Q10 勤務時間帯	1. 午前と午後(昼)	396	-0.156	0.274⑫	3.6 ⑬	0.053⑫
	2. 夜	748	-0.025			
	3. 深夜, その他	684	0.118			
Q15 アルバイトは収入の手段	1. はい	394	0.440	0.636④	8.3 ④	0.137④
	2. いいえ	544	0.001			
	3. どちらとも	890	-0.196			
Q1702 アルバイトの収入使途(生活費)	1. 選択	318	0.321	0.338⑪	4.4 ⑫	0.085⑨
	2. 非選択	1,510	-0.067			
Q1704 アルバイトの収入使途(衣服代)	1. 選択	474	-0.629	0.849②	11.1 ②	0.207②
	2. 非選択	1,354	0.220			
Q18 学業の妨げになるか	1. はい	180	0.380	0.469⑥	6.1 ⑥	0.081⑩
	2. いいえ	778	-0.089			
	3. どちらとも	870	0.001			
Q19 ウエイトのかけ方	1. 学業	587	-0.294	0.458⑦	6.0 ⑦	0.116⑦
	2. アルバイト	259	0.054			
	3. どちらとも	982	0.164			
Q20 仕事で正しい評価	1. はい	864	0.024	0.452⑧	5.91⑧	0.048⑬
	2. いいえ	58	0.403			
	3. どちらとも	906	-0.049			
Q29 卒業迄アルバイトを継続	1. はい	870	-0.118	0.410⑨	5.3 ⑩	0.076⑪
	2. いいえ	181	0.292			
	3. どちらとも	777	0.064			
Q02 外的基準: 性別	1. 男性 2. 女性	975 853			相関比 0.286	

注) 範囲・影響率・偏相関係数の丸印でかこんだ数字はそれぞれの順位。

図9 各アイテムの基準化されたカテゴリ-数量と相関比(外的基準：性別)



る。

以上の結果より、次のことがわかる。

① 外的基準のグループ間の分かれの程度または判別のよさを意味している指標は相関比 η^2 で表される。この場合 $\eta^2=0.286$ である。

② 各アイテムの基準化されたカテゴリ-数量の範囲ならびに影響率より、外的基準(性別)への影響の度合は、前回のアルバイトの内容、アルバイト収入使途(衣服代)、現在アルバイトの職種の順となる。また、外的基準と各アイテムの純粋な相関は、偏相関係数でわかる。偏相関の高いアイテムの順序は、前回のアルバイトの内容、アルバイト収入の使途(衣服代)、学年である。

③ 最後に、各アイテムの基準化されたカテゴリ-数量の値より、男女別アルバイトのパターンをまとめてみると次ページに示したようになる。

以上の点から、最初に示した仮説的関連図式は、ほぼ説明できるものとなっている。

この節を閉じるにあたり、林数量化Ⅱ類で計算した各個体(サンプル)の数量から、外的基準である性別の二群判別についての予測値については紙幅の都合上、割愛した。

(5) 現在のアルバイト職種別分析

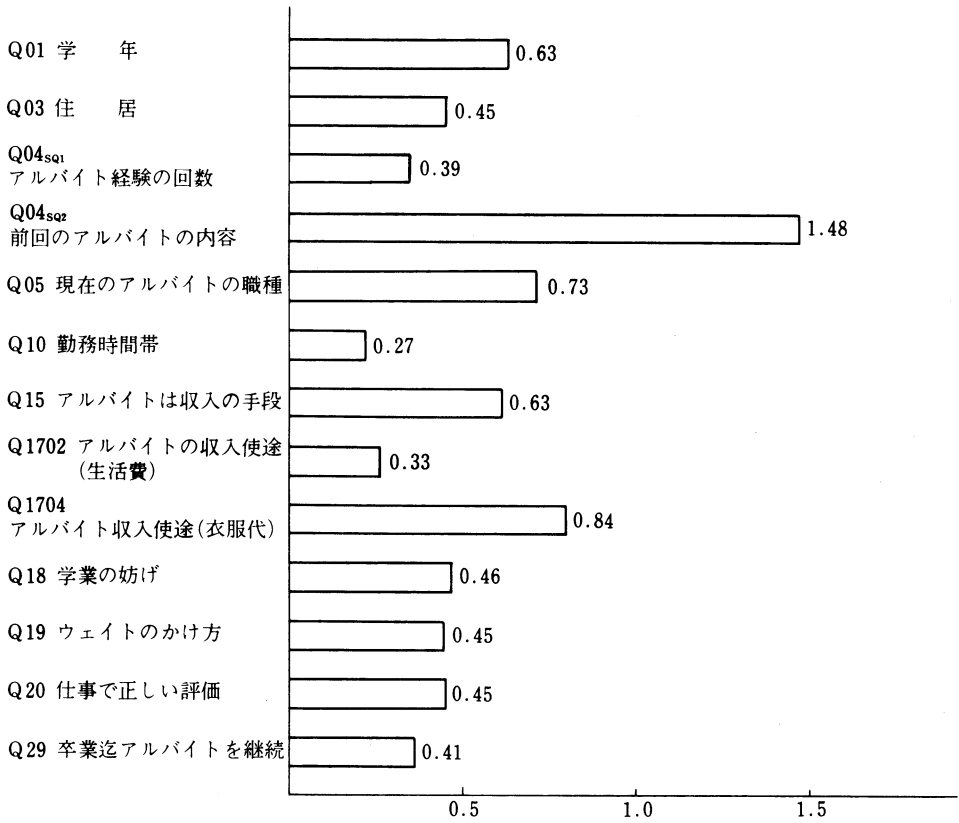
—クロス集計結果—

ここでのクロス集計は、「現在の職種」と「時給」、「労働日数」、「時給満足度」、「今後の職業生活の必要性」、「能力向上」、「アルバイト生活全体満足感」計6要因についてその職種別特徴をコメントする。

1) Q05 現在のアルバイトの職種と

Q11 現在のアルバイトの時給
販売・サービス・事務・専門の業務は、時給「550円から800円」までが7割と8割、これに対して、教育関係の仕事は、時給「801円~2000円」までが、7割と教育関係に高い時給額がうかがえ

図10 各アイテムの基準化された範囲(レンジ)
(外的基準：性別)



林数量化Ⅱ類の結果からみた男女別アルバイトのパターン

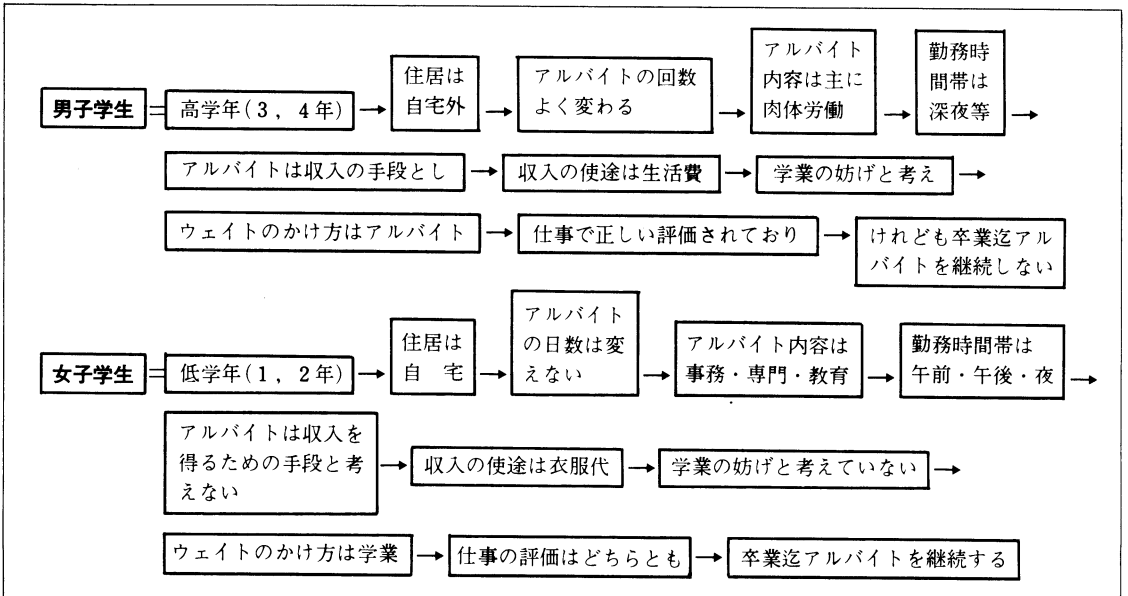
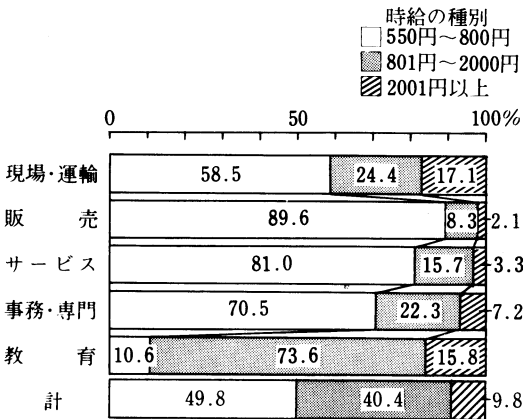


図11 現在の職種と時給(Q11 現在のアルバイトの時給)



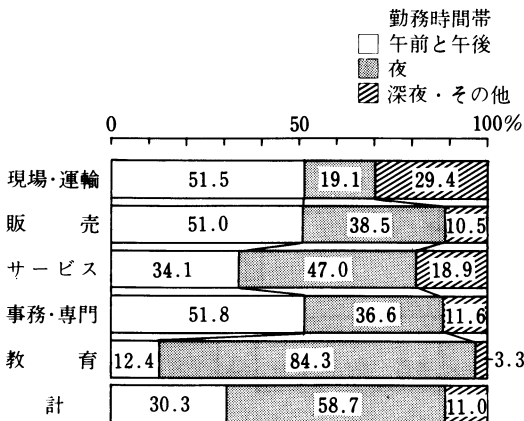
NUMBER OF MISSING OBSERVATIONS=580

る。(図11)

2) Q05 現在の職種とQ10 勤務時間帯

現場・運輸、販売、事務・専門の勤務時間帯は、「午前と午後」がそれぞれに半数を超え、これに対して、サービス、教育は、「夜」の勤務で前者のサービスが47%、後者の教育は、84.3%である。教育関係の仕事は「夜型」がその特徴であろう。そして、前節性別でみた「現在のアルバイト職種」で多くの女子大性が従事している「教育関係」の仕事は、おそらく「夜」の勤務時間帯が多いであろう。(図12)

図12 現在の職種と勤務時間 (Q10 勤務の時間帯は主としていつか)



NUMBER OF MISSING OBSERVATIONS=602

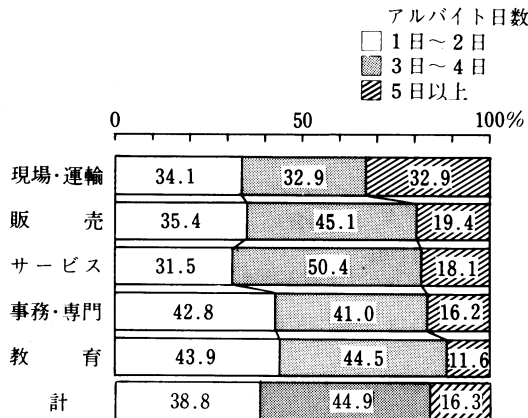
3) Q05 現在の職種と

Q07 一週間当たりのアルバイト日数

販売、サービスは、「1週間当たり3日から4日」

の比率が4割から5割台、事務・専門、教育は、「1日から2日」と「3日から4日」の比率がそれぞれに4割台である。現場、運輸は、アルバイト日数「1日から2日」、「3日から4日」、「5日以上」がそれぞれに約三分の一ずつの比率である。(図13)

図13 現在の職種と1週間当たりのアルバイト日数 (Q07 平均して週に何日位)



NUMBER OF MISSING OBSERVATIONS=580

4) Q05 現在の職種とQ13 時給満足度

時給満足度については、現場・運輸、事務・専門、教育の職種で「はい」と回答した比率がそれぞれに高く、なかでも現場・運輸は、約62%ととりわけ高い。これに対して、販売・サービスは、「はい」は約三分の一程度でその比率は全体からも大きく下回り、さらに、両者の「いいえ」と、そして、「どちらとも」は、状況によっては「いいえ」を示唆するものとみられ、これを合わせてみるとともに7割弱で、これらの職種は仕事の割には満足いくものが支払われていない状況をうかがわせる。(図14)

5) Q05 現在の職種とQ16 アルバイトの今後の職業生活の必要性

全職種に「はい」の高い回答がみられ、それぞれのアルバイト分野での経験は、「これからの職業生活に必要な」と思っている者が多い。(図15)

6) Q05 現在の職種とQ28 能力向上に役立つ

ここでも全職種に半数を超える者が、「はい」と回答している。なかでも、教育関係の仕事に従事している者の「能力を高めるのに役立っている」

図14 現在の職種と時給満足度 (Q13 今の時給に満足しているか)

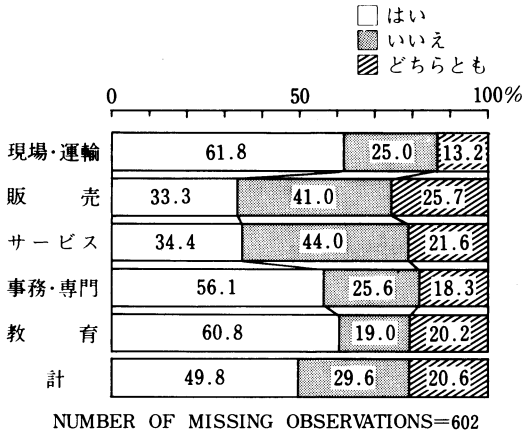


図16 現在の職種と能力向上に役立つ (Q28 能力を高めるのに役立つか)

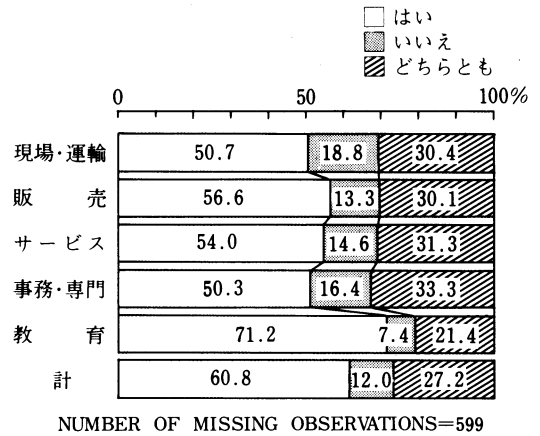


図15 現在の職種と今後の職業生活の必要性 (Q16)

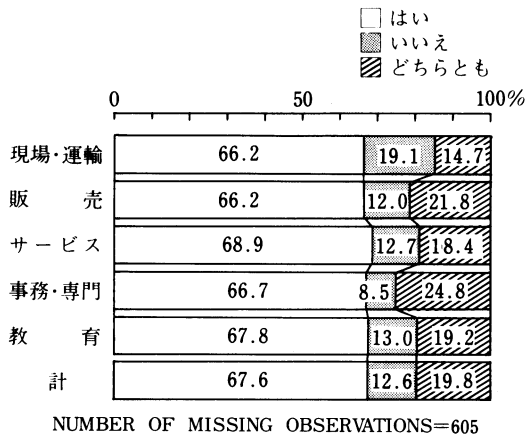
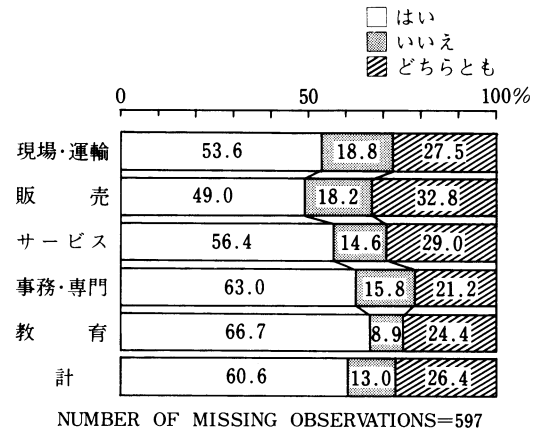


図17 現在の職種とアルバイト生活全体満足感 (Q30 今のアルバイト生活に全体として満足か)



とする比率がきわめて高いことが目につく。この点は、この種のアルバイトのプラスの要因であろう。そして、ここにアルバイト学生の誇りすらを感じさせるのは言い過ぎであろうか。(図16)

7) Q05 現在の職種とQ30 アルバイト生活全体満足感

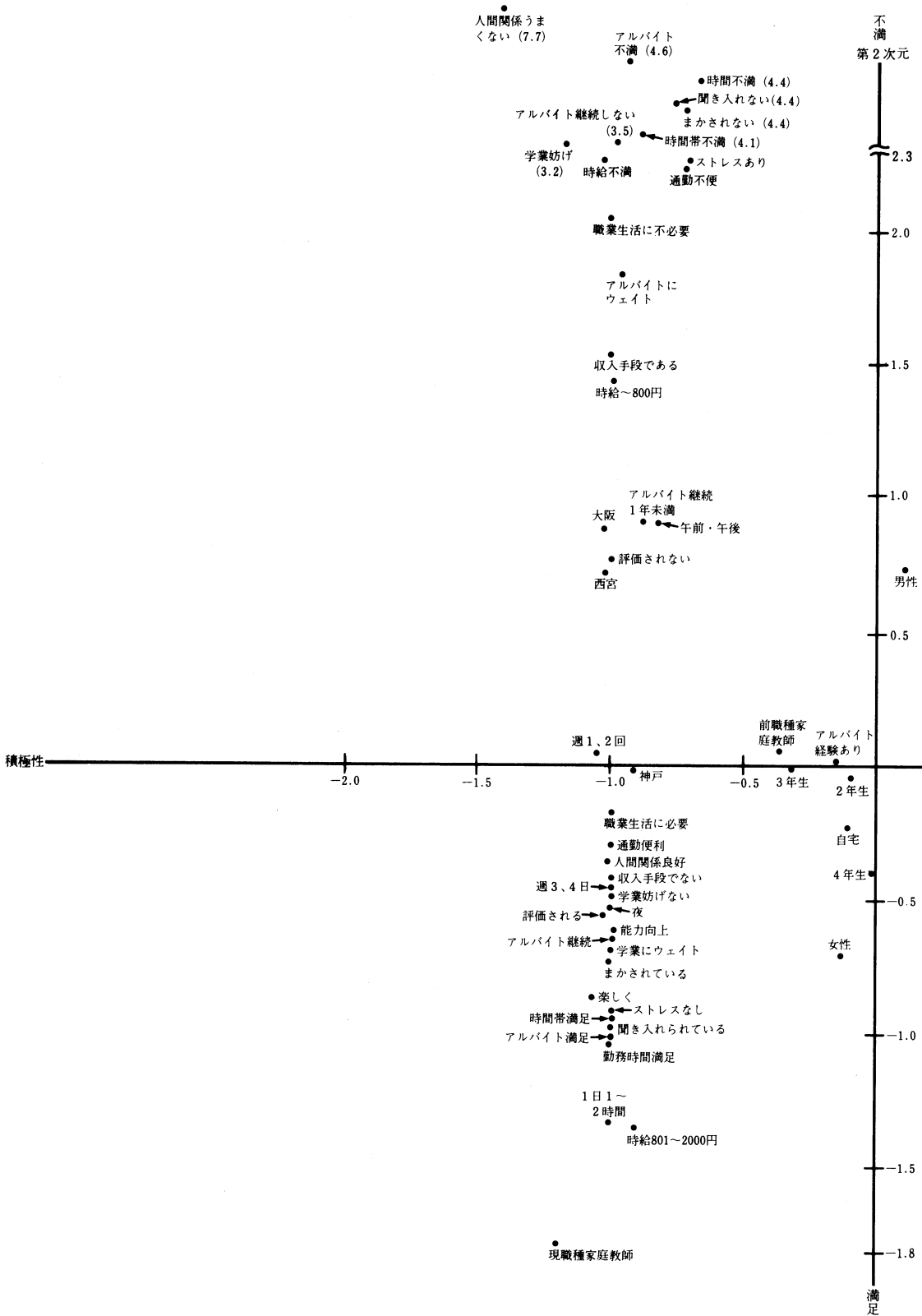
ほぼ全職種に、「アルバイト生活に満足」の傾向がうかがえるが、販売業務についている者の「いいえ」、「どちらとも」の比率合計が「はい」の比率を若干上回っている。販売は、正に「収入」のみの側面だけの満足だけなのだろうか。これに対して、教育関係は、アルバイト生活に「満足」の比率が高く、正に「収入」以外のものたとえば、そこに「楽しさ」等が考えられ、学生達がそれぞれの場において充実したものを得ているのかも知れない。(図17)

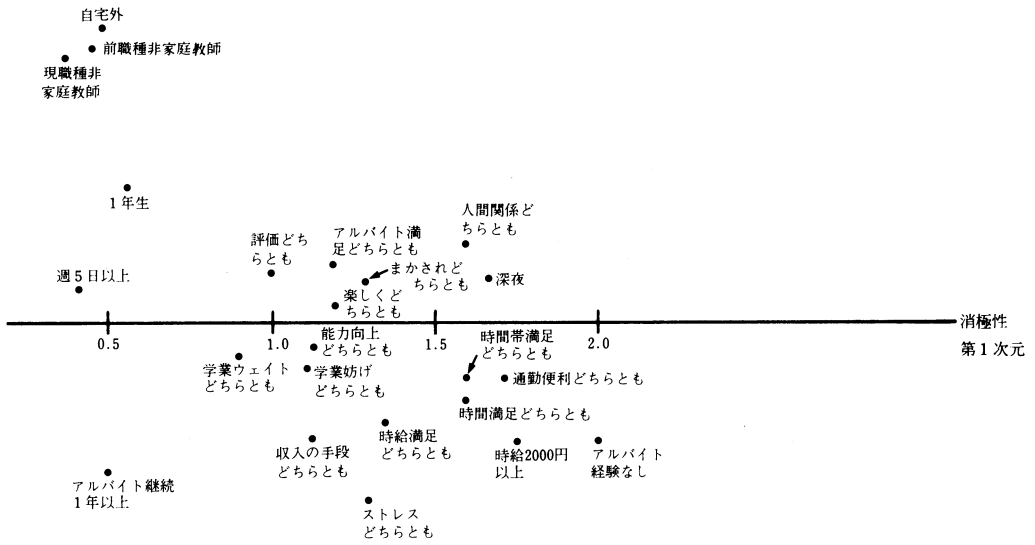
(6) 林の数量化Ⅲ類によるパタン分類

図18は、アルバイト経験の回数、アルバイト情報経路、アルバイト収入の用途に関する変数を除いた全変数を林数量化Ⅲ類によって分析したものである。その際、変数によってはカテゴリーをリコードした。アルバイトの職種は教育とそれ以外に二分した。一週間のアルバイト日数については1-2日、3-4日、5日以上に三分した。また一日のアルバイト時間では1-3時間とそれ以上に二分した。現在のアルバイトの継続期間は1年未満とそれ以上にまとめた。時間帯は午前と午後を一つにリコードした。時給は頻度がほぼ三等分される800円未満、801-2000円、200円以上に分けた。

横軸の第1次元のプラスの方向には、「アルバイト経験なし」や「通勤便利」をはじめアルバイ

図18





トの労働条件に対する「どちらともいえない」という中立的態度のカテゴリーが並んでいることに着目して、このプラスの軸はアルバイトに対する消極性を表すものと考えたい。このことから、深夜にアルバイトをしたり、労働条件が相当厳しいものと予想される2000円以上の高収入のアルバイトのカテゴリーがこの方向に位置しているのは、あるいはなんらかの理由でやむをえずアルバイトをしていると仮定できるかも知れないことを示唆しており、今後の検討材料となっている。

横軸のマイナスの方向には、アルバイトの労働条件に対する肯定、否定の両面を含んだ態度のカテゴリー群が布置している。これはポジティブとネガティブの相反する方向にありながら、アルバ

イトそのものには強い関心があることを示していると考えて、この方向の軸を積極性と特徴づけたい。

第2次元の縦軸については、プラスの方向には一貫して労働条件や職場状況に対する不満を、マイナスの方向は満足のカテゴリー群が固まっていることから、縦軸は明らかに満足-不満を表す軸といえることができる。

このようにパタン分類した相関図は、性別、学年別、アルバイト他、アルバイトの職種等のカテゴリーの位置関係に関しては極めて興味ある布置構造を示しており、この検討をしなければならぬが、紙幅の制限のため、次回に回したい。

付表・調査票：「社会学部学生アルバイトの実態調査」（1988年 調査実施）

『お願い』 この質問紙調査は「学生アルバイトの実態の実証的研究」をテーマにした、牧・遠藤・西山ゼミ合同の共同研究のためのデータとなるものです。何卒ご協力の程お願いいたします。

1. 学年 1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年 5. それ以上
2. 性別 1. 男性 2. 女性
3. 住居 1. 自宅 2. 自宅外
4. アルバイトの経験の有無 1. 有る 2. 無い
- 4 SQ1 アルバイトの経験ある場合、何回アルバイトを変えましたか。() 回)
- 4 SQ2 この前のアルバイトの内容はどういうものでしたか。(具体的に)
5. 現在アルバイトをしていますか。 1. はい——その内容(具体的に) 2. いいえ(以下回答不要)
6. あなたは現在のアルバイトを何で知りましたか。
 1. アルバイトニュース 2. 広告 3. チラシ 4. 学生相談所 5. 友人の紹介 6. 大学の厚生課 7. 張り紙
 8. その他()
7. あなたは現在平均して週に何日位アルバイトをしていますか。() 日位)
8. あなたは現在平均して一日何時間位アルバイトをしていますか。() 時間位)
9. あなたは現在のアルバイトをどれくらい続けていますか。() 年) 月)
10. 勤務の時間帯は主としていつですか。 1. 午前 2. 午後(昼間) 3. 夜 4. 深夜 4. その他()
11. 現在あなたのアルバイトの時給はどの位ですか。() 円)
12. 勤務地はどこですか。 1. 大阪市 2. 神戸市 3. 西宮市周辺 4. その他()
13. あなたは今の時給に満足していますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
14. あなたは今の勤務時間に満足していますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
15. アルバイトは収入を得るための単なる手段だと思いませんか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
16. アルバイトはこれからの職業生活のために必要であると思いませんか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
17. アルバイトの収入は主として何に使いますか。(2つまで選んで下さい)
 1. 学費 2. 生活費 3. 遊び代 4. 衣服費 5. 本・レコード等の教養費
 6. 自動車購入や海外旅行等のための費用 7. その他(具体的に)
18. アルバイトは学業の妨げになると思いませんか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
19. 今のあなたの生活で、学業とアルバイトのどちらのウェイトが大きいですか。
 1. 学業 2. アルバイト 3. どちらともいえない
20. あなたの仕事ぶりはアルバイト先で正しく評価されていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
21. 仕事の上であなたの考えは聞きいれられていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
22. あなたは仕事のことはかなりまかされていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
23. あなたは今の勤務時間帯に満足していますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
24. あなたはアルバイト先でストレスを感じていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
25. あなたは今のアルバイトを楽しくやっていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
26. アルバイト先で人間関係はうまくいっていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
27. アルバイト先への通勤は便利ですか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
28. アルバイトはあなたの能力を高めるのに役立っていますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
29. あなたは卒業までアルバイトを続けるつもりですか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない
30. あなたは今のアルバイト生活に全体として満足していますか。 1. はい 2. いいえ 3. どちらともいえない

————— ご協力ありがとうございました —————